

年金と投資に関する国民の意識について

2022/9/15

福山圭一¹

【要旨】

年金シニアプラン総合研究機構ではこの度「年金と投資に関する国民の意識調査」を行った。主眼は ESG 投資に関する一般国民の意識を調査することにある。性、年齢層、居住地域、学歴について、2020 年国勢調査の結果に基づき対象者を割り付けた。ただし、これら以外は、必ずしも日本の状況を反映しているわけではない。また、間違いと思われる回答も少なくないが、それが一般国民の意識なのであり、それらを含む全体を分析対象にする。

調査結果では、「わからない」という回答が多かったことから、先ずこれについて検討した。今回調査で「わからない」を回答肢に含む質問は 29 あるが、公的年金の加入・受給、企業年金・個人年金の加入・受給、政府の CO2 対策は比較的独立性があり、投資や ESG 関連の質問間ではかなり相互関連性がある。

幾つかの「わからない」との回答を取り上げ、この回答をする者を規定する要因をロジスティック回帰分析によって探索した。また、ESG 投資に関する希望について「わからない」と積極・消極の希望表明との行き来の要因を多項ロジット回帰分析によって探索した。なお、「わからない」と回答した者は、何らの意向も表明していないので、「わからない」の分析はあくまで前置きである。

年金や投資に関し一般国民の意識を把握するという本調査の目的に沿った分析として、「わからない」以外の何らかの意向を表明した回答者を対象に、ESG 投資への希望やその進め方、公的年金の株式運用に対する見解及び政府の CO2 対策に対する評価について、重回帰分析によって要因を明らかにすることを試みた。

回帰分析全体を総合して、最も重要度が大きい説明変数は、SDGs の関心度であり、重回帰分析で圧倒的な影響力を見せ、また、強く有意に「わからない」の減少要因になっている。続いて、公的年金株式運用の認知度、投資経験、将来の暮らしの見通し、年齢層などが続いている。普及啓発として、SDGs への関心を喚起することなどによって、ESG 投資などの積極的な理解促進と「わからない」を減らす大きな効果が見込めるだろう。

¹ 年金シニアプラン総合研究機構上席研究員。なお、本稿中意見や評価に関する部分は私見であり、所属機関のものではない。

1 はじめに

年金シニアプラン総合研究機構では、2022 年 6 月に年金と投資に関する国民の意識調査を行った。2012 年及び 2017 年に行った調査の継続調査であり、主眼は前 2 回の調査と同様に ESG 投資に関する一般国民の意識を調査することにある。今回はそれに加え、最近関心が高まっている SDGs やインパクト投資についての意識、個人の投資の仕方や年金積立金を株式で運用することに対する意識についても、関連する質問を行い、調査名も「年金と投資に関する意識調査」とした。

第 1 回調査が行われた 2012 年当時のわが国では、ESG 投資はマイナーな投資手法に過ぎず、ほとんど顧みられることはなかったと言っても過言ではない。しかし、2015 年に GPIF が PRI に署名し、ESG 投資に取り組む方針を明らかにして以来、状況は大きく変化した。2017 年の第 2 回調査はそのような変化の渦中で行われた。その後も、2020 年には政府の策定する公的年金に関する積立金基本指針が改正され、公的年金の運用主体に対し ESG の考慮が事実上義務づけられるなど、ESG 投資をめぐる状況は更に進展した。また、コーポレート・ガバナンス・コードにも改正の度に ESG に関する事項が種々盛り込まれ、少なくとも大企業では ESG が経営課題として意識されるようになってきている。今や、政府や年金関係者、金融・証券関係者、大手企業経営者の間では、ESG は常識に属する事項になっていると言って差支えないであろう。

そのような中、今回一般国民を対象に行われた調査の結果²を見ると、これとはかなり異なる光景が広がっている。ESG 投資についての認知度こそ 5 年前と比べると上昇したものの、それでもまだ約 7 割が「まったく知らなかった」と答えている。それ以外の ESG 投資に対する国民の捉え方や考え方は 5 年前とほとんど変わっておらず、見方によっては後退したのではないかとすら思えるものも少なくない。とりわけ、「わからない」という回答が多かった。投資や資金運用についてはまだまだ多くの国民にはなじみがないという実情が改めて確認された。

しかし、国民皆年金体制の下で、国民は年金資金の出し手であり、また最終受益者でもある。このように年金にとって最も重要な一般国民の認識がいつまでも曖昧なままという状態は決して好ましいものではない。今回の調査結果は、国民に対する普及啓発の必要性を強く示唆するものであると考えることができる。そのためにも、まずは調査結果の詳細な分析が必要である。

そこで、以下では、今回のアンケートデータを概観した後、「わからない」という回答に焦点を当て、その状況を整理・集計するとともに、「わからない」と回答する者を規定する要因を探ってみる。また、「わからない」以外の何らかの意向を表明した回答者を対象に、ESG 投資などに関する国民意識についても分析を試みる。

² 年金シニアプラン総合研究機構（2022）

2 今回のアンケートデータについて

調査対象者数は 4,500 人である。20 歳以上を調査対象とし、性、年齢層、居住地、学歴について、2020 年国勢調査の結果に基づき対象者を割り付けた³。このため、これらに関しては 2020 年 10 月時点における日本の状況を反映したものとなっている。

ただし、高齢化が進む中で高齢者の母集団の規模が大きいことなどから、60 歳台は 59 歳以下の 1/2、団塊の世代を含む 70 歳以上は 1/3 の抽出率を用いている。以下ではこれを戻し、全体を 5,984 サンプルにして集計・分析を行う。このため、60 歳台は同じサンプルが 2 つ、70 歳以上は 3 つある。男女別、年齢層別データは次のとおりである。これは 2020 年 10 月の日本における 20 歳以上の人口構成⁴と一致している。

図表 1 抽出率を戻した男女別、年齢層別データ

＼ 性別 年齢層	全体		男性		女性	
	実数	%	実数	%	実数	%
20歳台	704	11.8	359	12.5	345	11.1
30歳台	812	13.6	411	14.3	401	12.9
40歳台	1,055	17.6	532	18.5	523	16.9
50歳台	961	16.1	479	16.6	482	15.5
60歳台	904	15.1	442	15.3	462	14.9
70歳以上	1,548	25.9	660	22.9	888	28.6
合計	5,984	100.0	2,883	100.0	3,101	100.0

本調査はネット・アンケート方式で実施した。割付けに用いた事項ごとの調査対象者数に達するまでは先着順で回答を受け付けたことから、当該事項以外は、必ずしも日本の状況を反映しているわけではない。

回答者の就業状態については、本調査では日本の状況と比べ、役員、正規職員（公務員を含んでも）が少なく、無職が多い⁵。また、回答者の公的年金加入状況については、国民年金に加入しているという者（第 3 号被保険者を含む。）が多く、厚生年金に加入していると

³ 年金シニアプラン総合研究機構（2022）P.15 に、回収サンプル数（割付）として、その具体的内容が記されている。

⁴ 2020 年国勢調査による 20 歳以上の人口（年齢不詳除く）は 1 億 264 万人である。

⁵ 総務省「労働力調査」2021 年平均では、20 歳以上人口中、役員 3.3%、正規の職員・従業員 34.0%、パート・アルバイト 13.2%、派遣社員等その他非正規 5.8%、自営業主・家族従業員 6.3%、失業者・非労働力人口 37.4%である。本調査では、経営者又は役員 1.4%、正規職員・公務員 28.5%、パート・アルバイト 14.8%、派遣社員等 5.9%、自営業・自由業・家族従業員 6.4%、無職 41.7%である。

いう者が少ない⁶。集計結果を見る際にはこれらのことに留意する必要がある。

アンケートデータを集計してみると、70 歳以上なのに国民年金や厚生年金に加入しているという回答が相当数に上る⁷他、59 歳以下なのに老齢年金を受給しているなどの回答も散見される。企業年金・個人年金の関係では国民年金基金に加入しているという者が 7.2%と異常に多い⁸が、このうち半数近くが公的年金では国民年金第 1 号被保険者以外を選択している。

これら制度上あり得ない回答はデータクリーニングの観点から分析対象から除外するという方法も考えられるが、そうすると人口構成が日本の状況を反映しなくなる。これらの回答も、回答者本人の認識を示すものではある。また、そもそも公的年金の加入や受給の状況がわからないとする者が 1 割以上いる。認識は曖昧で誤りも多いとしても、それが一般国民の意識なのであり、そのように受け止めた上で、以下では、それらを含む全体を分析対象にすることとする。

⁶ 厚生労働省「公的年金加入状況等調査」（令和元年度）では、20 歳以上について、第 1 号被保険者 13.7%、第 2 号被保険者 42.5%、第 3 号被保険者 7.9%、非加入者 35.9%である。本調査では、第 1 号被保険者 20.5%、第 2 号被保険者 30.9%、第 3 号被保険者 10.8%である。なお、どれに該当するのかわからないという回答が 13.4%あった。

⁷ 70 歳以上の 9.9%が国民年金に加入、6.6%が厚生年金に加入していると回答している。

⁸ 国民年金基金連合会のホームページにある資料によると国民年金基金の現存加入者数は 2020 年度末で 34.4 万人であり、20 歳以上人口の 0.3%にすぎない。

3 「わからない」との回答について

調査結果の1つの特色として「わからない」という回答が多かったことが挙げられる。そこで、まずこれについて検討する。なお、以下では必要に応じ、公的年金を「公年」、企業年金を「企年」、企業年金・個人年金を「企個」、確定拠出年金を「DC」と略称する。

図表2 「わからない」を回答肢に含む質問とその回答割合

変数	問番号	質問内容	該当%
d1	3	公年の加入や受給の状況	13.4
d2	4	企個の加入や受給の状況	27.7
d3	10	日本政府のCO2対策をどのように思うか	27.0
d4	15	CSRについての考え	54.2
d5	17(1)	(公年株投資) 長期的には投資収益の獲得を期待できる	40.6
d6	17(2)	(公年株投資) 分散投資でかなりリスクを抑制できる	38.5
d7	17(3)	(公年株投資) 建設的な対話で企業価値向上に寄与できる	41.9
d8	18	公年の株式投資をどのように思うか	43.8
d9	19(2)	PRIの考えや取組みをどのように思うか	61.5
d10	20(1)	(公年) ESGを支援するよう投資してほしい	44.5
d11	20(2)	(公年) ESGに後ろ向きの企業には投資しないようにしてほしい	43.4
d12	20(3)	(公年) ESGを考慮することは合理的だ	47.3
d13	20(4)	(公年) ESGを考えることは慎重であるべきだ	45.7
d14	20(5)	(公年) ESGを考慮しても運用成績には結びつかない	50.2
d15	20(6)	(公年) 企業経営に影響を与えるべきではない	46.6
d16	21	公年のESG投資をどのように希望するか	46.9
d17	22(1)	(企年) ESGの取組みを支援すべきだ	46.6
d18	22(2)	(企年) ESGに後ろ向きの企業に投資されないようすべきだ	45.4
d19	22(3)	(企年) 企業のCSRに関する方針に沿った運用をすべきだ	47.0
d20	22(4)	(企年) 労使から明確な意思表示がない限り、慎重であるべきだ	46.9
d21	22(5)	(企年) 運用のし方も労働者の意見をよく聞いて決めるべきだ	43.8
d22	22(6)	(企年) 政府が運用に口出しすべきではない	44.7
d23	23	企年のESG投資をどのように希望するか	47.1
d24	24	自分で運用指図するDCでのESG投資をどのように思うか	42.4
d25	25	日本の年金資金によるESG投資をどのようにしていくべきか	44.0
d26	27(2)	インパクト投資をどのように思うか	63.8
d27	27(3)1	(公年) 環境問題や社会問題の解決を考慮することをどう思うか	38.6
d28	27(3)2	(企年) 環境問題や社会問題の解決を考慮することをどう思うか	39.5
d29	27(3)3	(DC) 環境問題や社会問題の解決を考慮することをどう思うか	41.9

(1) 本調査における「わからない」との回答の状況

調査では多くの質問をしているが、そのうち「わからない」という回答肢を含む質問は図表2のとおり全部で29ある。以下ではそれぞれの質問について「わからない」と回答した者を1、それ以外の回答をした者を0とするダミー変数を作成して分析する。

右端の該当%はそれぞれの質問について「わからない」と回答した者の総回答者に占める割合である。これを見ると、d9（PRIをどう思うか）とd26（インパクト投資をどう思うか）は該当%が6割を超えている。PRIについては、直前の質問に対する回答で、知らなかったという者が79.4%に上った。また、インパクト投資はまだわが国ではマイナーな投資手法であり、これらの割合が高かったことは必ずしも不自然ではない。

d4（CSRについての考え）とd14（公年でESGを考慮しても運用成績に結びつかないという意見についての見解）が50%台で幾分高かったが、それ以外の資金運用やESG投資関連の質問も該当%が軒並み40%台とかなり高い。日本人の資金運用やESG投資に関する「リテラシー」の実態を示すものと言えるだろう。

この中で、公年株投資のd6（公年株投資に関し、分散投資でリスクを抑制できるという意見に対する見解）並びにインパクト投資関連のd27及びd28（公年と企年に関し、環境問題や社会問題の解決を考慮することをどう思うか）でわずかだが40%を割っている。

「わからない」と回答する事情も回答者によって様々であろう。質問の意味がよく理解できない、あるいは、質問の意味はわかるがどう考えてよいかわからない、といった場合が多いと思われるが、資金運用や投資に関しては、不確実性があるがわからない、という場合もあるのではないだろうか。例えば、d6と1つ上のd5（投資収益の獲得を期待できる）とはそれほど該当%がかけ離れているわけではないが、差は有意である⁹。d5は将来の期待について聞いており、これに対し、本当に獲得できるか不確実である、という意味において「わからない」と答えることはありうると思われる。一方、d6はリスクを抑制できるという実態に対する見解を聞いており、将来の不確実性という色彩はd5に比べると薄い。それがd5とd6の該当%の差の幾分かになっているのかもしれない。d27とd28に関しては、他の質問と異なり「投資収益が確保できるのなら、してほしい」という回答者が選びやすいと思われる回答肢が用意されたことが影響した可能性が考えられる。

一方、該当%が最も少ないのはd1（公年の加入・受給の状況）である。これは投資や資金運用とは関係がない、「自分事」についての質問であり、他と数値を比較することは適切ではない。国民皆年金体制の下で「わからない」者が13.4%にも上ったことは深刻に受け止めるべきであろう。また、d2（企年の加入・受給状況）になると該当%が公年の倍に達し、国民の4人に1人以上が「わからない」という状況にある。これも、今後改善が求められる結果が示されたものと見るべきであろう。

⁹ $t(5,963)=6.305, p<0.001$

次に、これらの質問のうち、いくつ「わからない」を選んだかについて見てみる。図表 3 は 29 のダミー変数の合計値の分布を表し、単位は%である。回答数の「0」は 29 のどの質問にも「わからない」以外の回答をした者の区分別総回答者に占める割合、「1」は 29 問中どれか 1 つに「わからない」と回答した者の割合、「2」はどれか 2 つに「わからない」と回答した者の割合、「29」は 29 問全てに「わからない」と回答した者の割合である。

図表 3 「わからない」の回答数別、性別回答者割合（単位：%）

回答数	全体	男性	女性
0	14.4	20.0	9.1
1	7.7	9.8	5.8
2	6.4	6.9	5.8
3	4.6	4.8	4.4
4	3.5	3.7	3.3
5	2.4	2.5	2.3
6	3.1	2.7	3.5
7～12	11.5	9.0	13.8
13～19	11.4	9.4	13.3
20～25	13.4	11.6	15.0
26	5.4	5.0	5.9
27	7.4	6.4	8.3
28	5.0	4.1	5.9
29	3.8	4.0	3.6
合計	100.0	100.0	100.0

全体で、「0」すなわち 1 つも「わからない」を選ばなかった者は 14.4%と最も多く、次に多いのは「1」の 7.7%と少ない者の割合が比較的多い。「0」から「3」までで全体の約 1/3（33.0%）になる。

ただし、「27」も 7.4%いる。「7」から「25」まではそれぞれが 1～2%台なので、3 グループに集約して掲載している。「26」になると 5.4%と大きくなり、「27」は全体では 3 番目の大きさである。3.8%の回答者は 29 問全てで「わからない」を選んでいる。「26」から「29」までの合計も全体の 2 割を超す（21.7%）。

性別では、明らかに男性に「わからない」が少なく女性には多いという傾向が見られる。「0」と「1」で男性が女性を大きく上回り、「5」までは男性が女性を上回っているが、「6」以上は概ね女性が男性を上回る。集約したので読み取りにくいですが、少ない者から数えた累計が半数を超えるのは、全体では「11」である。これが、男性では「6」、女性では「13」にな

る。ただし、29問全てでわからないとした者の割合は男性が女性を上回っている。

「わからない」の回答数の分布を年齢層別に見たものが図表4である。高年齢ほど「わからない」は少なく、若者ほど多い傾向が見て取れる。これは、20歳台と70歳以上を比較すると明らかである。

図表4 「わからない」の回答数別、年齢層別回答者割合（単位：％）

回答数	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
0	11.4	14.2	14.1	12.7	15.3	16.5
1	7.4	7.4	6.9	7.3	7.3	9.1
2	7.7	5.0	5.6	5.1	6.4	7.8
3	3.7	3.9	4.2	3.2	2.9	7.4
4	3.1	3.7	2.3	3.9	3.5	4.3
5	2.3	2.7	2.1	1.8	2.9	2.7
6	3.7	2.0	2.5	2.5	3.8	3.9
7～12	10.2	8.4	10.5	11.3	13.3	13.4
13～19	9.8	12.9	11.2	11.0	12.6	11.0
20～25	12.2	12.3	15.5	16.1	16.8	9.3
26	5.3	5.5	5.3	7.1	5.3	4.7
27	6.3	8.6	9.3	9.4	6.0	5.4
28	6.7	6.7	7.5	5.1	2.7	3.1
29	10.4	6.7	3.0	3.5	1.3	1.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

しかし、仔細に見ると、「13～19」までは20歳台から50歳台まではそれほど違いがあるわけではない。これに対し、60歳台で幾分、70歳以上になるとはっきりと違いが表れる。読み取りにくいのが、少ない者から数えた累計が半数を超えるのは、20歳台で「13」、30歳台から50歳台までは「14」で同じある。これが60歳台では「10」、70歳以上は「6」になる。年金や投資に対する関心は現役層では薄く、シニア層意向になると高まると言えるのではないだろうか。なお、「28」ではかなりの程度、「29」ではほぼ明らかに、年齢層と回答者割合は逆比例していると言える。

(2)「わからない」が回答肢にある質問間の当該回答の相関状況

質問には関連し、あるいは内容が類似するものもある。質問の共通性が高いほど、一方に「わからない」と答えた者は他方にも同じ答えをするであろう。そこで、それぞれの質問間の相関を、相関係数を算出して見てみる。同係数は1～-1の値を取り、1は完全相関、-1は

完全逆相関である。今回の調査では、負の値は見られなかった。

相関係数の絶対値について、一般的に、1～0.7 は強い相関がある、0.7～0.4 はかなり相関がある、0.4～0.2 はやや相関がある、0.2～0 はほとんど相関がないとされている。そこで 1 未満 0.7 以上を***、0.7 未満 0.4 以上を**、0.4 未満 0.2 以上を*、0.2 未満を O として変数間の相関状況を示すと図表 5 のとおりである。なお、具体的な相関係数値は巻末資料 1 に掲げる。

図表 5 「わからない」との回答の質問間の相関状況

	d1	d2	d3	d4	d5	d6	d7	d8	d9	d10
d2	**									
d3	*	*								
d4	O	*	*							
d5	O	*	**	**						
d6	O	*	**	**	***					
d7	O	*	**	**	***	***				
d8	*	*	**	**	**	**	**			
d9	O	*	*	**	**	**	**	**		
d10	O	*	*	**	**	**	**	**	**	
d11	O	*	**	**	**	**	**	**	**	***
d12	O	*	*	**	**	**	**	**	**	***
d13	O	*	*	**	**	**	**	**	**	***
d14	O	*	*	**	**	**	**	**	**	***
d15	O	*	*	**	**	**	**	**	**	***
d16	O	*	*	**	**	**	**	**	**	**
d17	O	*	*	**	**	**	**	**	**	***
d18	O	*	*	**	**	**	**	**	**	***
d19	O	*	*	**	**	**	**	**	**	***
d20	O	*	*	**	**	**	**	**	**	***
d21	O	*	*	**	**	**	**	**	**	**
d22	O	*	*	**	**	**	**	**	**	**
d23	O	*	*	**	**	**	**	**	**	**
d24	O	*	*	**	**	**	**	**	**	**
d25	O	*	**	**	**	**	**	**	**	**
d26	O	O	*	**	**	**	**	**	**	**
d27	*	*	**	**	**	**	**	**	**	**
d28	*	*	**	**	**	**	**	**	**	**
d29	*	*	**	**	**	**	**	**	**	**

	d11	d12	d13	d14	d15	d16	d17	d18	d19	d20
d12	***									
d13	***	***								
d14	***	***	***							
d15	***	***	***	***						
d16	**	**	**	**	**					
d17	***	***	***	***	**	**				
d18	***	***	***	***	***	**	***			
d19	***	***	***	***	**	**	***	***		
d20	***	***	***	***	***	**	***	***	***	
d21	***	***	***	**	**	**	***	***	***	***
d22	**	**	***	**	***	**	***	***	***	***
d23	**	**	**	**	**	***	***	**	**	**
d24	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**
d25	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**
d26	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**
d27	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**
d28	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**
d29	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**

	d21	d22	d23	d24	d25	d26	d27	d28
d22	***							
d23	**	**						
d24	**	**	***					
d25	**	**	**	***				
d26	**	**	**	**	**			
d27	**	**	**	**	**	**		
d28	**	**	**	**	**	**	***	
d29	**	**	**	**	**	**	***	***

これを見ると d1（公年の加入又は受給）は他の質問とあまり相関は見られないが d2（企個の加入又は受給）とはかなり相関がある。d2 は他の質問と概ねやや相関がある。d3（政府の CO2 対策）は他の質問とやや相関があり、幾つかとはかなり相関がある。

これに対し、d4（CSR についての考え）以降は投資や ESG 関連の質問であり、他の質問とかなり相関がある。d5～d7 は公年の株式投資についての緒論点、d10～d15 は公年の ESG 投資に関する緒論点、d17～d22 は企年の ESG 投資に関する緒論点についてであり、それぞれ 1 つの表になってまとめて質問されたことも影響しているためか、各質問の

間で概ね強い相関がある。d 16（公年の ESG 投資希望）と d 23（企年の ESG 投資希望）、d 17（企年の緒論点の 1 つとして ESG を支援すべきだ）と d 23、d 23 と d 24（自分で運用指図する DC での ESG 投資をどうするか）、d 24 と d 25（年金資金による ESG 投資をどうしていくべきか）の間でも強い相関がある。また、インパクト投資に関連して環境問題や社会問題の解決に対する考えを公年、企年、DC に分けて聞いたが、これら（d 27～d 29）の間でも強い相関がある。

以上から、d 1 は他とほぼ独立し、d 2 もある程度独立していると見て差支えないであろう。d 3 はやや独立しているものの他と相互関連性がある。d 4 以下はかなり相互関連性があり、各緒論点における質問間では概ね強い相互関連性がある。

（3）「わからない」との回答の要因

どのような人が「わからない」と回答するのだろうか。これについて、主な質問に関する幾つかのダミー変数を目的変数、本調査で把握できる回答者の属性を説明変数とするロジスティック回帰分析¹⁰を行い、要因を探ってみる。

目的変数として、次を取り上げる。

- ・ d 1（公年の加入や受給の状況）
- ・ d 2（企年の加入や受給の状況）
- ・ d 3（日本政府の CO2 対策をどのように思うか）
- ・ d 5（公年株投資について、長期的には投資収益の獲得を期待できる）
- ・ d 8（公年の株式投資をどのように思うか）
- ・ d 16（公年の ESG 投資をどのように希望するか）
- ・ d 18（企年について、ESG に後ろ向きの企業に投資されないようすべきだ）
- ・ d 25（日本の年金資金による ESG 投資をどのようにしていくべきか）
- ・ d 26（インパクト投資をどのように思うか）
- ・ d 27（公年について、環境問題や社会問題の解決を考慮することをどう思うか）

このうち d 1～d 3 は先ほどの検討で比較的に独立性が高かったものである。d 5～d 7 は公年株投資に関する緒論点であり、相互に強い相関があったことから、d 5 で代表させる。d 8、d 16 及び d 25 は今回調査の主要関心事項である。公年及び企年における ESG 投資に関する緒論点について概ね強い相互関連性がある中で、d 18 が他の全ての緒論点と強い相関を示したので、これを代表とする。d 26 は今回新規の質問で関心事項の 1 つである。d 27～d 29 は環境問題や社会問題の解決を考慮することについて公年、企年、DC 別に聞いているが、相互に強い相関があるので、d 27 で代表させる。なお、d 23（企年の ESG 投資をどのように希望するか）も主要関心事項であり、d 24（自分で運用指図する DC での ESG

¹⁰ 0 か 1 の値を取るダミー変数に対し、0 から 1 までの値を取る S 字型曲線であるロジスティック曲線を当てはめる手法である。

投資をどのように思うか) も関心事項の 1 つだが、d 23 は d 16 と、d 24 は d 25 と、それぞれ強い相関があることから、省略する。

説明変数として、本調査で把握可能な回答者の客観的属性として、次のものを用いる。

- ・性別 (男性 1、女性 2)
- ・年齢層 (20 歳台 2、30 歳台 3、・・・60 歳台 6、70 歳以上 7)
- ・回答者の学歴 (短期大学・高専と専門学校・専修学校を同じカテゴリーとし、中学校 1、高等学校 2、短期大学・高専又は専門学校・専修学校 3、大学・大学院 4)
- ・職の有無 (学生又は無職 1、有職 0) ¹¹
- ・子の有無 (あり 1、なし 0)
- ・第 1 号被保険者 (国民年金加入を 1、それ以外を 0)
- ・第 2 号被保険者 (厚生年金加入を 1、それ以外を 0)
- ・第 3 号被保険者 (厚生年金加入者の被扶養配偶者を 1、それ以外を 0)
- ・企業年金か個人年金に加入又はそれから受給 (加入又は受給を 1、それ以外を 0)
- ・年収 (回答肢の 100 万円単位の間値、無収入 0、200 万円未満 1、200 万円～400 万円 3、・・・1,000 万円～1,500 万円 12.5、ただし、1,500 万円以上は 15)
- ・資産額 (回答肢の 100 万円単位の間値、50 万円未満 0.25、50 万円～100 万円 0.75、100 万円～200 万円 1.5、・・・5,000 万円～1 億円 75、ただし、1 億円以上は 100)
- ・投資経験 (あり 1、なし 0)

以上に加え、本調査で把握できる回答者の主観的認識に関する説明変数として、次のものを用いることとする。

- ・5 年程度先の暮らし向きの見通し (ずっと豊かに 2、少しは豊かに 1、変わらない又は特に考えていない 0、少し厳しく-1、ずっと厳しく-2)
- ・ESG で製品選択 (問 11 (1) ～ (6) の (5-回答番号) の合計値÷6) ¹²
- ・ESG で投資選好 (問 12 (1) ～ (6) の (5-回答番号) の合計値÷6)
- ・非 ESG で投資忌避 (問 13 (1) ～ (6) の (5-回答番号) の合計値÷6)
- ・公年による株式投資の認知度 (よく知っていた 4、まあ知っていた 3、聞いたことはある 2、知らなかった 1)
- ・ESG 投資の認知度 (よく知っていた 4、まあ知っていた 3、言葉だけは聞いたことがある 2、まったく知らなかった 1) ¹³

¹¹ 各就業形態別にダミー変数を作成すると多重共線性のおそれがある (線形回帰して VIF 値を算出すると 3 を超えたものがあった。) ので、無職ダミーだけとする。

¹² 問 11～問 13 について、各 6 問ずつある回答のそれぞれを説明変数にすると大半のもので線形回帰した VIF 値が 5 を上回った。そこで 3 問を (1) ～ (6) ごとに集約すると更に VIF 値が上昇した。問ごとに集約することで問題は回避できた。なお、5 から回答肢の番号を引き、番号が大きいほど ESG に積極的になるようにしている。

¹³ 調査では CSR の認知度やコーポレート・ガバナンスの認知度も聞いているが、これらを含

- ・SDGs に対する関心（大いに関心がある 4、まあ関心がある 3、あまり関心はない 2、まったく関心がない 1）

各変数の回帰結果の概要は図表 6 及び 7 のとおりである。ロジスティック回帰では係数値として目的変数と説明変数のオッズ比が表示される。これは他の説明変数が変わらないという条件で、説明変数が 1 単位変化した場合の目的変数のオッズの変化率を表す¹⁴。オッズはある比率 r について「 $r / (1 - r)$ 」で定義される。「わからない」との回答のオッズは「わからない者の比率 ÷ それ以外の者の比率」である。オッズ比は正の値を取り、1 が中立、1 を上回ると増加、下回ると減少を意味する¹⁵。オッズ比の右にあるアスタリスクは有意度の目安であり、 p 値が 0.1%未満を***、0.1%以上 1%未満を**、1%以上 5%未満を*で示す。疑似 R^2 は疑似決定係数¹⁶であり、回帰式の説明力を表す。なお、標準誤差や z 値などを含む回帰結果の詳細は巻末資料 2 に掲げる。

以下、目的変数ごとに見ていく。d1（公年の加入や受給）については、第 1 号被保険者、第 2 号被保険者又は第 3 号被保険者であるとした者は公年の加入・受給に関し「わからない」は選べないので、これら 3 つは説明変数には含めることができない。強い有意性が示されたものとして、まず性別がある。男性 1、女性 2 を付番していることから、1 単位上昇とは男性から女性になることを意味し、そうなるとオッズ比は 0.626 と 1 未満なので「わからない」は減少する。すなわち、公年の加入・受給に関しては一般に女性の方がより明確に認識している。次に、年齢層が高まると「わからない」が減少する。学歴が高くなるとやはり減少する。無職になると増加する。子があると増加する。企個の加入・受給に伴って減少する。投資経験があると減少する。5 年後の暮らし向きがポジティブであると増加する（将来に楽観的である人の方が、わからないが多くなりがち）。公年の株式運用を知っていると減少する。SDGs に関心が高いほど減少する。なお、有意度は低いですが、ESG 投資の認知度が高いほど増加することも示された。

d2（企個の加入や受給）については、企個の加入・受給自体を説明変数に含めることはできない。強い有意性が示されたものを見ると、年齢が高まると「わからない」が減少する。国民年金や厚生年金に加入していると減少する。投資経験があると、公年の株式運用を知っているほど、また、SDGs に関心が高いほど減少する。その他、かなりの有意性を示したも

めると線形回帰した VIF 値が 3 を超えたので、説明変数には含めていない。

¹⁴ 図表中のオッズ比の大小だけで増減の程度を相対比較することは適切ではない。その主な理由は、説明変数間で 1 単位の意味合いが異なるからである。例えば、性別は 2 値であるので 1 単位が最小値から最大値への変化であるのに対し、年齢層は 2 から 7 まで 6 段階あるうちの 1 段階の変化である。このため、一般に段階数が少ないほど大きな値になりがちである。

¹⁵ オッズ比の自然対数がロジットであり、この符号は、オッズ比が 1 を上回ると正、下回ると負になる。

¹⁶ MacFadden の疑似決定係数。以下同じ。なお、重回帰分析における決定係数に比べると正確性に劣ることから「疑似」とされており、参考値である。

のとして、子があると増加する。第3号被保険者だと減少し、5年後の暮らし向きの見通しがポジティブであると増加する。ESGで投資を選好するほど増加する。

図表6 「わからない」の回答者に関するロジスティック回帰分析（その1）

説明\目的	d1	d2	d3	d5	d8
性別	0.626 ***	0.921	1.105	1.209 *	1.138
年齢層	0.817 ***	0.743 ***	1.015	1.167 ***	0.890 ***
学歴	0.832 ***	0.936	0.949	0.924	0.917 *
職の有無	2.661 ***	0.913	1.232 *	0.934	0.921
子の有無	1.808 ***	1.237 **	1.331 ***	1.149	1.115
第1号	—	0.314 ***	0.714 **	1.071	0.763 **
第2号	—	0.264 ***	0.928	1.011	0.786 *
第3号	—	0.670 **	0.725 *	1.228	1.084
企個	0.283 ***	—	0.677 ***	0.838 *	0.806 **
年収	1.018	0.987	0.976	0.990	1.044 *
資産	1.003	0.997	0.996	0.999	0.998
投資経験	0.613 ***	0.659 ***	0.743 **	0.560 ***	0.472 ***
暮らし	1.193 ***	1.103 **	1.058	1.044	1.043
ESGで製品	0.877	1.008	0.517 ***	0.704 ***	0.867 *
ESGで投資	0.913	1.174 **	0.854 *	0.760 ***	0.907
非ESG忌避	1.052	0.929	0.744 ***	0.643 ***	0.812 ***
公年株認知	0.618 ***	0.604 ***	0.658 ***	0.442 ***	0.405 ***
ESG認知	1.233 *	0.960	1.092	0.673 ***	0.718 ***
SDGs関心	0.771 ***	0.587 ***	0.557 ***	0.652 ***	0.439 ***
疑似R2	0.215	0.215	0.259	0.332	0.383

d3（政府のCO2対策に対する評価）については、強い有意性が示されたものとして、子があると「わからない」が増加する。企個の加入・受給に伴って減少する。ESGによる製品選択や非ESGによる投資忌避に積極的であると減少する。公年の株式運用を知っているほど、SDGsに関心が高いほど、減少する。かなりの有意性を示したものとして、投資経験があると減少する。その他有意性の程度は低くなるが、無職になると増加し、第3号被保険者は減少し、ESGでの投資選好に消極的だと増加する。

d5（公年株投資について、長期的には投資収益の獲得を期待できる）以降はかなり相互関連性が高まることは先に見たとおりである。d5については、強い有意性が示されたものとして、年齢層が増加要因であり、投資経験、ESGによる製品選択、投資選好、非ESGに

よる投資忌避、公年の株式運用認知度、ESG 投資の認知度及び SDGs への関心度が減少要因である。その他、性別が増加要因、企個の加入・受給が減少要因であることがある程度有意に示された。

図表 7 「わからない」の回答者に関するロジスティック回帰分析（その 2）

説明\目的	d16	d18	d25	d26	d27
性別	1.429 ***	1.496 ***	1.401 ***	1.317 ***	1.149
年齢層	1.064 *	1.083 **	1.045	1.248 ***	1.071 *
学歴	0.911 *	0.883 **	0.898 **	0.871 ***	1.001
職の有無	1.138	0.848	1.055	0.991	0.926
子の有無	1.144	0.991	1.079	0.969	1.130
第1号	1.024	1.262 *	0.965	1.012	0.945
第2号	1.377 **	1.247 *	1.004	1.258 *	0.893
第3号	1.213	1.151	1.033	1.276 *	1.057
企個	0.720 ***	0.805 **	0.676 ***	0.880	0.814 **
年収	1.002	0.984	1.028	1.016	1.013
資産	0.999	1.000	0.998	0.995 *	0.995
投資経験	0.848 *	0.856	0.766 **	0.580 ***	0.688 ***
暮らし	1.054	1.067	1.052	1.032	1.117 **
ESGで製品	0.660 ***	0.660 ***	0.831 **	0.839 **	0.866 *
ESGで投資	0.984	0.916	0.970	0.961	0.853 **
非ESG忌避	0.740 ***	0.598 ***	0.779 ***	0.729 ***	0.672 ***
公年株認知	0.641 ***	0.646 ***	0.551 ***	0.702 ***	0.532 ***
ESG認知	0.670 ***	0.585 ***	0.749 ***	0.588 ***	0.718 ***
SDGs関心	0.522 ***	0.494 ***	0.382 ***	0.494 ***	0.415 ***
疑似R2	0.263	0.312	0.318	0.272	0.330

d8（公年の株式投資をどのように思うか）では、強く有意に示されたものとして、年齢層、投資経験、非 ESG による投資忌避、公年の株式運用の認知度、SDGs への関心度が減少要因である。また、国民年金への加入や企個の加入・受給がかなり有意な減少要因である他、ある程度有意に、高学歴になり、厚生年金に加入し、あるいは、ESG による製品選択に積極的であると減少し、年収が増えたと増加する。

図表 7 についても見方は変わらない。目的変数には ESG 投資やインパクト投資関連の目的変数が並んでいる。図表にあるとおりなので、細かなコメントは省略するが、非 ESG による投資忌避、公年株式運用の認知度、ESG 投資の認知度及び SDGs の関心度は、全てで強く有意な減少要因になっている。ESG による製品選択は、有意度は若干落ちるが、全て

で減少要因である。学歴、企個の加入・受給及び投資経験もほとんどで減少要因である。

一方、性別と年齢層はほとんどで増加要因である。また、厚生年金加入がかなりの増加要因である。

(4)「わからない」と積極・消極の意向表明との関係

それでは、どのような要因によって、「わからない」とする者が何らかの意向を表明するようになり、あるいは、意向を表明した者が「わからない」になるのだろうか。これについて、公年による投資に関する2つの質問を取り上げ、検討してみたい。

1つは、公年による ESG 投資への希望（問 21）、もう1つは公年による株式投資に対する見解（問 18）である。前者は、本調査の主眼は ESG 投資に関する一般国民の意識を調査することにあり、それを代表する質問である。後者は、今回初めて調査対象にしたテーマであるが、国民の関心が高いと思われる。

公年による ESG 投資への希望についての質問は、5 択で聞いている。回答肢のうち、「してほしい」と「どちらかといえばしてほしい」を積極、「してほしくない」と「どちらかといえばしてほしくない」を消極とし、「わからない」を加えた3つのカテゴリーに集約する。そして、そのいずれかを取る変数を目的変数とし、ベース・カテゴリーを「わからない」とする多項ロジット回帰分析を行う。説明変数については、前節と同じものを用いる。

公年による ESG 投資への希望についての回帰結果の概要は図表 8 のとおりである。標準誤差や z 値を含む回帰結果の詳細は巻末資料 3 に掲げる。

係数は前節との継続性を考慮しオッズ比で表示している。右横のアスタリスクの意味は前節と同じである。これは、他の説明変数が変わらないという条件で、説明変数が1単位増加した場合に、どの程度「わからない」が積極又は消極になり（オッズ比は1以上）、あるいは、積極又は消極が「わからない」になる（オッズ比が1未満）のかを表す。なお、あくまで「わからない」との間の変化を表すものであり、積極と消極の間の変化を表すものではない。

2 列に分けて掲載しているが、右側下の SDGs への関心がとりわけ注目される。関心の度合いが高まるとともに「わからない」から積極になる者も消極になる者も増えるが、特に積極は数値が3 台という他にない大きな値になっており、消極になる者に比べて積極になる者がはるかに多いことを示している。

公年の株式運用を知っているほど「わからない」から積極も消極も増えるが、積極の増え方が幾分大きい。これに対し、ESG 投資について知っているほど同じく積極も消極も増えるものの、消極の増え方が若干大きいという逆の傾向が出ている。

また、投資経験があると、ない場合に比べ、「わからない」から積極になる者が増える。一方、消極は有意ではないので、投資経験の有無によって「わからない」と消極との動きがどうなるのかについては何とも言えない。

図表 8 公的年金による ESG 投資への希望に関する多項ロジット回帰分析
(ベース・カテゴリーは「わからない」)

説明\目的	積極	消極	説明\目的	積極	消極
性別	0.650 ***	0.732 ***	資産	1.007 *	0.996
年齢層	0.894 **	0.967	投資経験	1.637 ***	0.950
学歴	1.080	1.114 **	暮らし	1.006	0.909 *
職の有無	0.874	0.871	ESGで製品	1.483 ***	1.560 ***
子の有無	0.803 *	0.912	ESGで投資	1.267 ***	0.874 *
第1号	0.877	1.051	非ESG忌避	1.435 ***	1.323 ***
第2号	0.703 **	0.753 **	公年株認知	1.778 ***	1.473 ***
第3号	0.710 *	0.925	ESG認知	1.402 ***	1.521 ***
企個	1.459 ***	1.353 ***	SDGs関心	3.761 ***	1.375 ***
年収	0.984	1.006	疑似R2	0.240	

ESG での製品選択や非 ESG での投資忌避に伴って積極も消極も増加して「わからない」が減る。一方、ESG による投資選好に伴って、やはり積極は増加して「わからない」が減るが、消極はある程度有意に減少し、その分「わからない」が増える。

その他、ある程度有意に、資産が増えると積極が増え（消極は有意ではない）、将来の暮らしの見通しが楽観的だと消極が「わからない」になる（積極は有意ではない）。

左側を見ると、性別については女性になると積極も消極も減り「わからない」が増えるが積極からの減り方が幾分大きい。企個の加入・受給に伴って積極、消極とも増えるが、積極の増え方が少し消極を上回っている。

また、かなり有意に、年齢層が高くなると積極から「わからない」になる（消極については有意ではない）、学歴が高くなると消極が増える（積極は有意ではない）、厚生年金に加入すると積極からも消極からも「わからない」になる。その他、ある程度有意に、子があるか第3号被保険者であると積極から「わからない」になる（消極は有意ではない）。

次に、公年による株式投資に対する見解についての質問だが、これは6択で聞いている。その中に「その他」があり、これを選んだ者にはその内容を具体的に記述してもらう形式になっている。「その他」は7人が選んでいるが、これを内容に応じ適宜他の回答肢に割り振った。その上で、「公的年金の積立金は株式に重点的に投資すべきだ」と「債券などの他の種類の資産と組み合わせた分散投資の一環なら、株式に投資してもかまわない」を積極、「株式には投資しない方がよいと思うが、今日のような低金利下ではやむを得ない」と「公的年金の積立金は株式に投資するべきではない」を消極とし、「わからない」を加えた3つのカテゴリーに集約する。そして、同じように、そのいずれかを取る変数を目的変数とし、ベース・カテゴリーを「わからない」とする多項ロジット回帰を行う。説明変数も同じものを用

いる。

公年による株式投資に対する見解についての多項ロジット回帰分析の結果の概要は図表 9 のとおりである。回帰結果の詳細は巻末資料 3 に掲載する。

図表 9 公的年金による株式投資に対する見解に関する多項ロジット回帰分析
(ベース・カテゴリーは「わからない」)

説明\目的	積極	消極	説明\目的	積極	消極
性別	0.766 **	0.953	資産	1.004	1.000
年齢層	1.073 *	1.159 ***	投資経験	3.410 ***	1.449 ***
学歴	1.105 *	1.087	暮らし	1.105 *	0.885 **
職の有無	1.298 *	0.996	ESGで製品	1.078	1.211 **
子の有無	0.961	0.871	ESGで投資	1.282 ***	0.998
第1号	1.431 **	1.258 *	非ESG忌避	1.151 *	1.292 ***
第2号	1.398 *	1.222	公年株認知	2.894 ***	2.216 ***
第3号	0.845	0.978	ESG認知	1.438 ***	1.325 ***
企個	1.337 **	1.172 *	SDGs関心	2.991 ***	1.952 ***
年収	0.974	0.947 *	疑似R2	0.293	

まず目に付くのは投資経験である。「わからない」から積極になる者も消極になる者も増えるが、特に積極は数値が 3 台という他にない大きな値になっている。同様の傾向でこれに近いのは、SDGs への関心度と公年の株式運用の認知度である。投資経験は 2 段階の変数であるのに対し、SDGs への関心度と公年の株式運用の認知度は 4 段階の変数であるので、オッズ比が大きいから投資経験の方が他よりも積極になる効果大きいということでは必ずしもない。

積極も消極も増えるが、積極の増え方の方が大きいという同様の傾向は、国民年金への加入、企個の加入・受給、ESG 投資の認知度でも見られる。一方、どちらも増えるが、消極の増え方が大きいのは、年齢層、非 ESG による投資忌避である。

将来の暮らし向きの見通しが楽観的だと、積極は増え、消極が減る。学歴、無職、厚生年金加入と、ESG による投資選好で積極が増え、性別では減る（いずれも消極は有意ではない）。また、年収が消極の減少要因である（積極は有意ではない）。

4 意向表明者を対象とした ESG 投資等についての国民意識の分析

これまで「わからない」との回答を対象に分析を行ってきた。本調査の目的は年金や投資に関し一般国民の意識を把握することであり、表明された見解や希望の状況を集計・分析することが本来メインである。その意味では、「わからない」と回答した者は何らの意向も表明していないので、「わからない」の分析は少し長かったがあくまで前置きである。意向表明した人たちを対象にしてこそ、調査目的に沿った分析であると言えるだろう。そこで、以下では「わからない」との回答を除外して分析を行う。

(1) 公的年金による ESG 投資への希望表明者の希望の要因

まず、公年による ESG 投資への希望を取り上げる。これについて、「わからない」を除くと、「してほしい」、「どちらかといえばしてほしい」、「どちらかといえばしてほしくない」、「してほしくない」になる。この4つの回答肢は積極から消極へと順序関係は明確である。そこで、この順に、4, 3, 2, 1 を付番する。番号は順序を表すだけで、量的な関係を表すものではないが、積極性の程度を表す数値とみなして、これを目的変数とする重回帰分析を行う¹⁷。

重回帰の係数は、他の説明変数が変わらないという条件で、説明変数が1単位増加した場合の目的変数の変化の程度を示す。符号が正であれば増加、負であれば減少を意味する。係数の右横のアスタリスクの意味は前節のロジスティック回帰と同じである。表の右下にサンプル数を示すが、これは「わからない」と回答した者を除外したサンプル数である。R2 は決定係数であり、目的変数のどれだけが説明されたのかを表す比率である。R2 は1以下の正の値を取り、R2 が1とは、目的変数が説明変数だけで完全に予測できることを意味する。各説明変数の右端にある ΔR^2 は当該変数によるR2の増分、すなわち、当該変数を含めずに重回帰を行った場合に比べ当該変数を含めた場合にR2がどれだけ増加したかを示すものであり、当該変数の影響力を表す。なお、 ΔR^2 は各変数の単独の効果を示すものであり、R2は複数の変数の相互効果も含むので、 ΔR^2 を合計してもR2には及ばない。

説明変数は前節のロジスティック回帰で使用したものと同一とする。重回帰分析結果の概要は図表10のとおりである。なお、標準誤差やt値を含む回帰結果の詳細は巻末資料4

¹⁷ 重回帰分析は目的変数が数量尺度である必要があることから、このようなみなしを行う。順序尺度に対しては順序ロジット回帰を行うことが厳密には適切であるが、順序ロジット回帰と重回帰は結果に大きな違いが出ることはほとんどない（石黒（2014））こと、順序ロジット回帰の係数は解釈が複雑になるのに対し、重回帰の係数は本文に記載するとおり直感的にもわかりやすいこと、重回帰では ΔR^2 を算出することができることから、本稿では重回帰分析について記述する。なお、掲載しないが、並行して順序ロジット回帰も行い、係数の正負の符号は有意なものについては一致していること、各係数の相対比は有意なものについては2～3台に収まっており異常値はないことを確認している。なお、各係数の有意度もほぼ一致しているが、異なるものは以下で注記する。

に掲げる。

図表 10 公的年金による ESG 投資への希望に関する希望表明者の重回帰分析

説明変数	係数	ΔR^2	説明変数	係数	ΔR^2
性別	-0.032	0.000	資産	0.003 ***	0.003
年齢層	-0.015	0.000	投資経験	0.150 ***	0.006
学歴	-0.012	0.000	暮らし	0.055 ***	0.004
職の有無	-0.005	0.000	ESGで製品	0.005	0.000
子の有無	0.015	0.000	ESGで投資	0.127 ***	0.009
第1号	-0.036	0.000	非ESG忌避	0.031	0.001
第2号	0.011	0.000	公年株認知	0.061 ***	0.003
第3号	-0.020	0.000	ESG認知	0.003	0.000
企個	0.064 *	0.001	SDGs関心	0.395 ***	0.096
年収	-0.010	0.001	サンプル数: 3,180 R ² : 0.301		

有意な説明変数は右側に集中している。SDGs への関心度がここでも際立っている。目的変数への影響力 (ΔR^2) が他の説明変数に比べて著しく大きい。目的変数は 4 段階であり、SDGs への関心度も 4 段階で聞いている。他の説明変数が変わらないという前提で、SDGs への関心度が 1 段階上がると、公年による ESG 投資への希望が消極から積極方向へ 0.395 段階押し上げられる。この効果は他の説明変数と比べても極めて大きい。

影響力が次に大きいのは ESG による投資選好である。ただし、影響力の程度は SDGs への関心度に比べるとその 1 割程度である。ESG による投資選好は各 4 択で聞く 6 問の回答を集約したものであるが、(5-回答番号) の合計を 6 で割っているため、1 単位は 4 段階のうちの 1 段階に相当する。ESG による投資選好が 1 段階積極的になると、他の説明変数が変わらないという前提で、公年による ESG 投資への希望が積極から消極方向へ 0.127 段階押し上げられる。

影響力が 3 番目に大きいのは、投資経験である。これは、あり、なしの 2 値の変数である。投資経験があると、ない場合に比べ、公年による ESG 投資への希望が積極方向に 0.150 段階押し上げられる。

次いで影響力が大きいのは、5 年程度先の暮らし向きの見通しである。これはアンケートとは 6 択で聞いているが、「変わらない」と「特に考えていない」を 1 つに集約し、5 段階の説明変数としている。将来の暮らし向きの見通しが 1 段階楽観的になることに伴って、公年による ESG 投資への希望が積極方向に 0.055 段階押し上げられる。

次は公年の株式運用の認知度である。これは 4 段階で聞いており、認知度が 1 段階上昇すると、公年による ESG 投資への希望が積極方向に 0.061 段階押し上げられる。

資産額も影響度では公年株式運用の認知度と同等である。1 単位が 100 万円であり、資産額が 100 万円増えると、公年による ESG 投資への希望が積極方向に 0.003 段階押し上げられる。資産額は 50 万円未満の 0.25 から 1 億円以上の 100 までと範囲が広いので、1 単位の変化による目的変数の変化の程度を表す係数値は低くなる¹⁸。

また、企個の加入・受給がある程度の有意性を示している¹⁹。

(2) 企業年金による ESG 投資への希望表明者の希望の要因

次に企年による ESG 投資への希望を目的変数とする重回帰分析を行う。目的変数の内容は公年と同じであり、用いる説明変数も同じである。

結果の概要は図表 11 のとおりである。結果の詳細は巻末資料 4 に掲載する。

図表 11 企業年金による ESG 投資への希望に関する希望表明者の重回帰分析

説明変数	係数	Δ R2	説明変数	係数	Δ R2
性別	-0.029	0.000	資産	0.002 **	0.002
年齢層	0.001	0.000	投資経験	0.080 **	0.002
学歴	-0.001	0.000	暮らし	0.032 *	0.001
職の有無	0.038	0.000	ESGで製品	-0.025	0.000
子の有無	0.022	0.000	ESGで投資	0.135 ***	0.010
第1号	0.029	0.000	非ESG忌避	0.056 ***	0.003
第2号	0.075 *	0.001	公年株認知	0.083 ***	0.007
第3号	0.098 *	0.001	ESG認知	-0.042 *	0.001
企個	0.093 ***	0.003	SDGs関心	0.428 ***	0.114
年収	-0.012	0.001	サンプル数: 3,166 R2: 0.322		

見方は公年についてのものと同じである。SDGs への関心度の影響力が公年以上に際立っている。目的変数の押し上げ効果も 0.428 段階と公年を上回っている。

影響力が次に大きいのは ESG による投資選好である点も公年と同じである。押し上げ効果は 0.135 段階と公年の場合を幾分上回る。

¹⁸ このように説明変数間で類型が異なる場合に、各説明変数を平均値 0、標準偏差 1 に標準化して重回帰分析を行い、標準化回帰係数を算出して相互比較することがよく行われるが、今回の重回帰分析の説明変数にはダミー変数が多く含まれている。ダミー変数はすでに 2 値に標準化されており他の変数との間で標準化回帰係数を比較することには無理があるとの意見がある（鈴木（2013））。そこで、本稿では ΔR2 で説明変数間の影響度を相互比較するというアプローチを採っている。

¹⁹ 順序ロジット回帰では有意ではない。

影響力の 3 番目には公年の株式運用の認知度が来る。これは公年と違う点である。押上げ効果は 0.083 段階と公年の場合を少し上回る。

影響力が次いで大きいのは、企個の加入・受給である²⁰。また、非 ESG による投資忌避も同等の影響度を有する。

更に、資産額や投資経験²¹もある程度の影響力を有し、厚生年金加入者であることや第 3 号被保険者であること、将来の暮らし向きに楽観的であることも影響している。

(3) 日本の年金資金による ESG 投資の進め方

調査では公的年金、企業年金をあわせた日本の年金資金による ESG 投資について、これからどのようにしていくべきかについても質問している。これは、「積極的に取り組むべきだ」、「徐々に取り組んでいくべきだ」、「否定はしないが、控えめでよい」、「必要ない」、「その他」及び「わからない」の 6 択で聞いており、「その他」を選んだ者にはその内容を具体的に記述してもらった形式になっている。「その他」は 6 人が選んでいるが、これを内容に応じ適宜他の回答肢に割り振り、その上で、「わからない」は除外した。

残った上記回答肢の順に 4, 3, 2, 1 を付番し、これを目的変数とする重回帰分析を行う。説明変数はこれまでと同じである。

結果の概要は図表 12 のとおりである。結果の詳細は巻末資料 4 に掲載する。

図表 12 年金資金による ESG 投資の進め方に関する意向表明者の重回帰分析

説明変数	係数	Δ R2	説明変数	係数	Δ R2
性別	-0.049	0.001	資産	0.002 *	0.001
年齢層	-0.006	0.000	投資経験	0.145 ***	0.005
学歴	-0.019	0.000	暮らし	0.031 *	0.001
職の有無	0.042	0.000	ESGで製品	0.008	0.000
子の有無	-0.017	0.000	ESGで投資	0.131 ***	0.009
第1号	-0.006	0.000	非ESG忌避	0.061 ***	0.003
第2号	0.075 *	0.001	公年株認知	0.074 ***	0.005
第3号	0.010	0.000	ESG認知	-0.023	0.000
企個	0.083 **	0.002	SDGs関心	0.463 ***	0.123
年収	-0.006	0.000	サンプル数: 3,353	R2: 0.358	

見方は同じである。「公的年金、企業年金をあわせた」とあることから、公的年金及び企

²⁰ 順序ロジット回帰では企個の有意度は**である。

²¹ 順序ロジット回帰では資産額が有意度***、投資経験は*である。

業年金についての回帰結果と基本的な傾向は似通っている。SDGs への関心度の影響力は更に強く表れている。また、ESG による投資選好が影響力の第 2 位であり、次いで、投資経験と公年の株式運用の認知度、そして、非 ESG による投資忌避、企個の加入・受給と続く。更に、厚生年金加入、資産額²²、将来の暮らし向きの見通しが楽観的であることも影響している。

(4) 公的年金による株式運用についての見解

続いて、公年による株式運用についての見解を取り上げる。「その他」は適宜他の回答肢に割り振った。「公的年金の積立金は株式に重点的に投資すべきだ」、「債券などの他の種類の資産と組み合わせた分散投資の一環なら、株式に投資してもかまわない」、「株式には投資しない方がよいと思うが、今日のような低金利下ではやむを得ない」、「公的年金の積立金は株式に投資するべきではない」の順に 4, 3, 2, 1 を付番し、「わからない」は除外した。これを目的変数とする重回帰分析を行う。説明変数はこれまでと同じである。

結果の概要は図表 13 のとおりである。結果の詳細は巻末資料 4 に掲載する。

図表 13 公的年金による株式運用についての見解表明者の重回帰分析

説明変数	係数	Δ R2	説明変数	係数	Δ R2
性別	-0.096 **	0.002	資産	0.003 ***	0.004
年齢層	-0.057 ***	0.005	投資経験	0.342 ***	0.028
学歴	-0.010	0.000	暮らし	0.083 ***	0.008
職の有無	-0.013	0.000	ESGで製品	-0.029	0.000
子の有無	-0.003	0.000	ESGで投資	0.103 ***	0.005
第1号	0.013	0.000	非ESG忌避	-0.034 *	0.001
第2号	0.003	0.000	公年株認知	0.106 ***	0.010
第3号	-0.065	0.000	ESG認知	0.035	0.001
企個	0.080 **	0.002	SDGs関心	0.184 ***	0.018
年収	0.000	0.000	サンプル数: 3,362 R2: 0.209		

見方は同じだが ESG 投資関連とは内容が異なる質問なので、これまで 3 つの回帰結果とは少し様相が異なっている。最も影響力が大きいのは投資経験である。SDGs への関心度が 2 番目の影響力である。公年の株式運用認知度、将来の暮らし向きの見通し、ESG による投資選好及び年齢層と続く。年齢層は符号が負なので、年齢が高くなるほど株式運用に消極的

²² 順序ロジット回帰では資産額の有意度は**である。

になる。資産額、企個の加入・受給²³が積極の影響、性別と非 ESG による投資忌避が消極の影響がある²⁴。

(5) 政府の CO2 対策に対する評価

本稿における意向表明者を対象にした分析の最後として、政府の CO2 対策に対する評価を取り上げる。今日では、CO2 の排出削減は数あるサステナビリティ課題の中で最も代表的なものである。従って、この質問に対する回答状況を国民のサステナビリティに関する意識と見ることができるだろう。

調査では、日本政府の CO2 排出削減目標やそれに向けた取組みについて、「とてもよい」、「まあよい」、「あまりよくない」、「まったくよくない」、「その他」及び「わからない」の 6 択で聞いている。そして、「その他」を選んだ回答者にはその内容を具体的に記述してもらう形式になっている。「その他」は 15 人が選んでいるが、これを内容に応じ適宜他の回答肢に割り振り、その上で、「わからない」は除外した。

残った上記回答肢の順に 4, 3, 2, 1 を付番し、これを目的変数とする重回帰分析を行う。説明変数等はこれまでと同じである。

結果の概要は図表 14 のとおりである。結果の詳細は巻末資料 4 に掲載する。

図表 14 政府の CO2 対策についての評価表明者の重回帰分析

説明変数	係数	Δ R2	説明変数	係数	Δ R2
性別	0.173 ***	0.008	資産	0.001	0.000
年齢層	0.056 ***	0.006	投資経験	-0.021	0.000
学歴	-0.042 **	0.002	暮らし	0.162 ***	0.034
職の有無	0.079 *	0.001	ESGで製品	0.088 ***	0.003
子の有無	-0.026	0.000	ESGで投資	0.069 ***	0.003
第1号	0.035	0.000	非ESG忌避	-0.018	0.000
第2号	0.087 *	0.001	公年株認知	-0.027	0.001
第3号	-0.006	0.000	ESG認知	-0.103 ***	0.006
企個	0.005	0.000	SDGs関心	0.263 ***	0.048
年収	-0.015 **	0.001	サンプル数: 4,366	R2	0.186

ここでも最大の影響力を示したのは SDGs の関心度である。これは ESG 投資関連の重回帰分析と同様である。

²³ 順序ロジット回帰では企個の有意度は*である。

²⁴ その他に、順序ロジット回帰では ESG 投資の認知度の有意度が*である。

注目されるのは、影響力の第2位に、5年ほど将来の暮らし向きの見通しが入ってきたことである。将来の個人の暮らし向きと政府のCO2対策の評価との間に強く大きな関連性がある。これをどう解釈すればよいだろうか。楽観的な性格の人は政府の対策も肯定的に受け止めやすいという面はあるだろう。一方、CO2削減が将来の暮らし向きに大きく影響すると思う人が多いためであるとも考えられる。最近になって大雨や洪水被害が多発するようになり、地球温暖化が生活の安定を脅かす大きなリスクであることを多くの国民が明確に認識してきている。今回の結果はその現れと考えることもできるだろう。あるいは、将来の暮らし向きの見通しと政府のCO2対策との間に、本調査では把握できない隠れた要因が介在している可能性も考えられる。いずれにせよ、大変興味深い結果である。

上位2つに比べると影響力は落ちるが、性別が第3位である。符号は正なので、女性の方が政府のCO2対策を肯定的に評価していると言える。

次は年齢層である。高年齢ほど政府のCO2対策を肯定的に評価する傾向にある。

年齢層と同程度の影響力はESG投資の認知度も有している。ただし、こちらは符号が負なので、ESG投資の認知度が高いほど、政府のCO2対策を否定的に評価する傾向がある。若干意外な結果だが、ESG投資に詳しい人ほど、CO2対策が必ずしも容易な課題ではないと考える傾向にあることを示唆するものと言えるだろう。

ESGによる製品選択とESGによる投資選好がいずれも肯定的評価の方向を示している。一方、非ESGによる投資忌避は有意ではない。

学歴が高くなると、かなり有意に否定的な評価をする傾向がある。また、年収が高くなるほど否定的な評価をする傾向にある²⁵。

その他、ある程度有意に、無職になると肯定的に評価する傾向がある。厚生年金に加入すると同様に肯定的に評価する傾向がある²⁶。

²⁵ 順序ロジット回帰では年収の有意度は*である。

²⁶ その他に、順序ロジット回帰では公年株認知の有意度が*である。

5 回帰分析の説明変数ごとのまとめ

本稿では幾つかの回帰分析を行った。これは目的変数と説明変数との間の関連性を示すが、因果関係を示すものではない。改めてこのことを念押ししておきたい。

回帰分析では、説明変数が目的変数を規定する要因という関係になる。そこで以下、これまでの分析全体を総合し、各説明変数の状況について、重要度順にほぼ従って簡単にまとめの記述をする。

なお、重要度は次で算出したスコアによることとする²⁷。結果は図表 15 のとおりである。

$$\begin{aligned} \text{重要度スコア} = & (\text{ESG 投資関連の 3 つの重回帰の } (\Delta R^2 \times 1000)^{0.5} \text{ の合計}) \div 3 \\ & + \text{公年株式投資に対する見解についての重回帰の } (\Delta R^2 \times 1000)^{0.5} \\ & + \text{政府の CO2 対策の評価についての重回帰の } (\Delta R^2 \times 1000)^{0.5} \\ & + d1 \sim d3 \text{ についてのロジスティック回帰のアスタリスク数} \times 0.5 \\ & + (d5 \sim d27 \text{ についてのロジスティック回帰のアスタリスク数}) \times 0.25 \\ & + (2 \text{ つの多項ロジット回帰のアスタリスク数}) \times 0.25 \end{aligned}$$

図表 15 本稿の回帰分析における説明変数の重要度スコア

順位	説明変数	スコア	順位	説明変数	スコア
1	SDGs 関心	34.5	11	ESG で製品	9.7
2	公年株認知	18.9	12	学歴	6.5
3	投資経験	17.6	13	第2号	5.6
4	暮らし	13.9	14	子の有無	5.0
5	年齢層	12.8	15	第1号	4.7
6	ESG 認知	12.6	16	資産	4.5
7	非ESG 忌避	12.2	17	職の有無	3.7
8	性別	11.6	18	第3号	2.9
9	ESG で投資	11.4	19	年収	2.3
10	企個	11.2			

(1) SDGs の関心度

各説明変数の中で際立っているのは、SDGs の関心度である。ESG 投資に関する重回帰分析では他の変数を圧倒する大きな影響力を示し、政府の CO2 対策についても最大の影響力であった。また、公年株式運用に対する見解でも投資経験に次ぐ影響力であった。

²⁷ これはあくまで便宜的に算出したものである。ΔR² は数値差が大きすぎるので平方根(^0.5)とした。

「わからない」についてのロジスティック回帰でも、全ての目的変数に対し強く有意に「わからない」が減少する要因である。2つの多項ロジット回帰ではいずれも「わからない」から消極を大きく上回って積極に導く要因になっている。

(2) 公的年金株式運用の認知度

5つの重回帰分析の影響度で一定の影響力を有する。

「わからない」についてのロジスティック回帰で全ての目的変数に対し強く有意な減少要因である。多項ロジット回帰ではいずれも積極方面への増加が消極への増加を上回る。

(3) 投資経験

公年の株式運用に対する見解に関する重回帰分析で最大の影響力を示し、ESG 投資関連でも一定の影響力を示す。ただし、政府の CO2 対策では有意ではない。

「わからない」に関するロジスティック回帰では大半の目的変数で減少要因である。また、公年株式投資に関する多項ロジット回帰では積極が消極を大きく上回る増加要因であり、ESG 投資の希望でも積極の増加要因である。

(4) 5年ほど先の暮らし向きの予想

政府の CO2 対策の評価に関する重回帰分析で第2位の影響力を示し、他の4つの重回帰分析でも、影響力は限定的であるものの、全てで有意性を示している。

「わからない」に関しては、幾つかの項目で増加要因であり、将来を楽観視する人ほど「わからない」が増える傾向にある。多項ロジット回帰では主に消極の減少要因になっている。

(5) 年齢層

年齢層は、公年の株式運用に対する見解に関する重回帰分析で強く有意に負の値を示した。一方、政府の CO2 対策では正の値を示している。

「わからない」については、公年と企個の加入・受給で減少要因である一方、株式運用による長期的な収益期待については増加要因である。多項ロジット回帰では、公年株式運用については積極の増加要因であり、公年の ESG 投資希望については積極の減少要因である。

(6) ESG 投資の認知度

重回帰分析では、政府の CO2 対策を否定的に評価する傾向があることを示す他は、ほとんど影響力を示していない。

一方、「わからない」についてのロジスティック回帰では、資金運用や ESG 関連の目的変数については全てで強く有意な減少要因である。一方、公年の加入・受給に関しては増加要因である。政府の CO2 対策では有意ではなく、言葉を知っていても CO2 対策の理解に必ずしも結びついていない。

(7) ESG による製品選択、ESG による投資選好及び非 ESG による投資忌避

この3問は連続する質問であり、質問内容がほぼ共通しているので、まとめて取り扱う。

この中で、ESG による投資選好は、ESG 投資の希望では第2位の影響力を示し、他の重回帰でも一定の影響力がある。2つの多項ロジット回帰では積極の増加要因であり、ESG 投資の希望については消極の減少要因でもある。ただ、「わからない」についてのロジスティック回帰では減少要因として有意であった目的変数はそれほど多くはない。

一方、ESG による製品選択と非 ESG による投資忌避は、重回帰分析では影響力は限定的だが、「わからない」についてのロジスティック回帰では、公年及び企個の加入・受給以外の全ての目的変数で減少要因になっている。また、多項ロジット回帰では、非 ESG による投資忌避は ESG 投資の希望では消極より積極の増え方が大きい、公年による株式投資に対する見解では消極の増え方が大きい。ESG による製品選択は両方で消極の増え方が積極より大きい。

(8) 性別

重回帰分析では、女性の方が、政府の CO2 対策を肯定的に評価する一方、公年株式運用に対する見解については否定的である。

「わからない」のロジスティック回帰では、公年の加入や受給では減少要因だが、資金運用や ESG 投資関連では増加要因であり、逆になっている。質問の数を数える図表3では、男性に「わからない」が少なく女性には多い状況が示されたが、これは資金運用や投資関連の質問数が圧倒的に多いことが影響している。年金と投資に関し、単純に女性の方が「わからない」が多いということではなく、事柄の性格によって不明の度合いが性別間で異なっていることは強調しておきたい。多項ロジット回帰は2つとも ESG 投資と資金運用関連であり、概ね「わからない」の増加要因になっている。

(9) 企個の加入・受給

説明変数としての企個の受給・加入は、重回帰分析で影響力の程度は低いものの、政府の CO2 対策以外で、有意性を示す。「わからない」についてのロジスティック回帰でも大半で減少要因である。2つの多項ロジット回帰でも消極を上回る積極の増加要因である。

(10) 学歴

政府の CO2 対策の評価に関する重回帰分析で否定的な傾向を示したが、他の重回帰分析ではいずれも有意ではない。

「わからない」に関しては、学歴が減少要因であることは常識に適っている。ただし、強く有意なのは2項目であり、他は有意度が落ち、また、有意でない事項も幾つかある。学歴が高くなると「わからない」が減るという単純な状況では必ずしもない。公年 ESG 投資の

希望についての多項ロジット分析では消極の増加要因になっている。

(11) 公的年金加入

わが国は国民皆年金なので、第1号、第2号及び第3号はまとめて取り扱う。なお、第2節で見たとおり、公年の加入はあくまで本人の認識であって、実際には誤りも少なからずあることには留意が必要である。

ESG投資関連と政府のCO2対策の重回帰分析で一部がある程度の有意性を示したが、影響力は限定的である。

「わからない」については、公年への加入は企個の加入・受給で明確な減少要因であり、政府のCO2対策や公年株運用に対する見解でも減少要因だが、ESG関連ではむしろ増加要因になっている場合が散見される。公年株式投資に関する多項ロジット回帰では国民年金加入が積極も消極も増加要因であり、厚生年金加入も積極の増加要因である。一方、公年ESG投資の希望については厚生年金加入が積極も消極も減少要因になっている。

(12) 子の有無

子の有無は5つの重回帰分析ではいずれも有意ではない。

「わからない」に関しては、子があることは年金への加入・受給について増加要因である。また、政府のCO2対策が増加要因であり、資金運用やESG関連では有意ではない。子があると、将来世代のためにこれらの関心が高まるのではないかとも思えるが、調査結果はそうではないことを示唆している。

(13) 資産額

影響力は限定的であるものの、政府のCO2対策以外の4つの重回帰分析で有意性を示し、一定の関連性がある。一方、「わからない」に関してはほとんどの項目で有意ではない。

(14) 職の有無

政府のCO2対策である程度有意に肯定的な傾向を示すが、他の4つの重回帰分析では有意ではない。「わからない」に関しては、無職になると公年の加入・受給に関し「わからない」が増える。しかし、資金運用やESG関連では有意ではない。

(15) 年収

重回帰分析では、政府のCO2対策でかなり有意に否定的な傾向を示したが、他ではいずれも有意ではない。「わからない」についてもほとんどの項目で有意ではない。

6 おわりに

以上から、今後の年金と投資に関する普及啓発の望ましい方向性が見えてくるのではないだろうか。まず、SDGs への関心を喚起することが挙げられる。ESG 投資などの積極的な理解促進、そして、「わからない」を減らす大きな効果が見込めるだろう。

公的年金の株式運用の認知度を引き上げていくことも有効であると思われる。自主運用開始から 20 年以上が経過し、これ自体が課題であるが、これが進むことで年金と投資に関する理解促進にポジティブな効果が期待できよう。投資経験も、「貯蓄から投資へ」のスローガンに見られるとおりにかねてからの課題であるが、同様の効果が期待できるだろう。

さて、今回の調査で「わからない」との回答が多かったことから、まずこれについて分析した。どこまで解明できたかは別として、少なくとも本調査における「わからない」の全体像は明らかにできたのではないかと思う。

これに対し、「わからない」との回答を除外した意向表明者については、ESG 投資への希望やその進め方、公年の株式投資に対する見解及び政府の CO2 対策についての評価について分析をただけである。他にも様々な質問があり、それぞれに貴重な回答が寄せられている。これらの分析は今後の課題である。

また、今回の調査は 2012 年調査から見て第 3 回目となる。本稿は今回調査だけを対象としたが、前回調査と比較した分析、そして、調査対象の絞り方などが異なっているので必ずしも容易ではないが、第 1 回調査も含めた 3 回の調査を通じた分析も、今後の課題である。

今後これらに鋭意取り組んでいきたい。

【参考文献】

- 石黒格 (2014)『改訂 Stata による社会調査データの分析 入門から応用まで』、北大路書房、p 128
- 鈴木譲 (2013)「ダミー変数の標準化」『西日本社会学会ニュース』No.142、p 17
<https://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/~sociowest/img/news142.pdf>
- 年金シニアプラン総合研究機構 (2022)『年金と投資に関する意識調査』
<https://www.nensoken.or.jp/wp-content/uploads/R4-01.pdf>

【巻末資料 1】

「わからない」との回答についての質問間の相関係数

	d1	d2	d3	d4	d5	d6	d7	d8
d1	1.000							
d2	0.430	1.000						
d3	0.242	0.281	1.000					
d4	0.198	0.292	0.382	1.000				
d5	0.185	0.282	0.418	0.461	1.000			
d6	0.197	0.291	0.431	0.485	0.867	1.000		
d7	0.176	0.260	0.424	0.461	0.841	0.870	1.000	
d8	0.230	0.374	0.416	0.543	0.574	0.586	0.554	1.000
d9	0.123	0.211	0.352	0.484	0.482	0.501	0.501	0.487
d10	0.162	0.255	0.388	0.508	0.617	0.625	0.612	0.563
d11	0.172	0.261	0.406	0.509	0.613	0.632	0.611	0.566
d12	0.145	0.248	0.395	0.502	0.613	0.631	0.635	0.546
d13	0.164	0.259	0.381	0.481	0.600	0.611	0.616	0.547
d14	0.143	0.233	0.363	0.451	0.602	0.604	0.620	0.507
d15	0.150	0.236	0.366	0.463	0.577	0.589	0.596	0.526
d16	0.163	0.269	0.392	0.469	0.542	0.536	0.529	0.547
d17	0.136	0.252	0.383	0.501	0.599	0.614	0.605	0.520
d18	0.138	0.266	0.398	0.493	0.605	0.615	0.608	0.529
d19	0.133	0.266	0.380	0.487	0.598	0.609	0.617	0.520
d20	0.143	0.252	0.380	0.466	0.604	0.607	0.606	0.526
d21	0.157	0.264	0.384	0.475	0.593	0.601	0.593	0.533
d22	0.142	0.259	0.368	0.456	0.581	0.585	0.580	0.520
d23	0.165	0.272	0.394	0.464	0.537	0.539	0.541	0.542
d24	0.176	0.284	0.392	0.452	0.527	0.539	0.530	0.524
d25	0.195	0.325	0.407	0.515	0.537	0.550	0.531	0.611
d26	0.108	0.194	0.312	0.469	0.430	0.459	0.440	0.435
d27	0.204	0.300	0.418	0.506	0.527	0.531	0.515	0.593
d28	0.212	0.301	0.418	0.504	0.528	0.534	0.516	0.570
d29	0.203	0.295	0.408	0.485	0.522	0.529	0.000	0.560

(続き)

	d9	d10	d11	d12	d13	d14	d15	d16
d9	1.000							
d10	0.548	1.000						
d11	0.554	0.878	1.000					
d12	0.564	0.854	0.846	1.000				
d13	0.555	0.824	0.832	0.846	1.000			
d14	0.547	0.783	0.786	0.821	0.832	1.000		
d15	0.522	0.764	0.763	0.767	0.789	0.790	1.000	
d16	0.544	0.640	0.635	0.637	0.649	0.622	0.642	1.000
d17	0.543	0.753	0.734	0.744	0.719	0.705	0.693	0.670
d18	0.532	0.741	0.773	0.746	0.739	0.714	0.712	0.669
d19	0.537	0.728	0.740	0.741	0.735	0.711	0.692	0.650
d20	0.536	0.702	0.723	0.724	0.765	0.728	0.725	0.671
d21	0.508	0.697	0.728	0.701	0.724	0.679	0.697	0.641
d22	0.500	0.681	0.700	0.693	0.705	0.684	0.702	0.652
d23	0.560	0.646	0.648	0.645	0.645	0.636	0.624	0.755
d24	0.517	0.599	0.594	0.589	0.598	0.582	0.581	0.655
d25	0.540	0.619	0.628	0.604	0.629	0.578	0.595	0.654
d26	0.594	0.492	0.506	0.502	0.499	0.492	0.462	0.481
d27	0.503	0.592	0.593	0.571	0.575	0.540	0.552	0.595
d28	0.502	0.595	0.609	0.579	0.585	0.546	0.552	0.583
d29	0.509	0.576	0.591	0.577	0.575	0.539	0.534	0.564

(続き)

	d17	d18	d19	d20	d21	d22	d23	d24
d17	1.000							
d18	0.877	1.000						
d19	0.839	0.863	1.000					
d20	0.825	0.851	0.856	1.000				
d21	0.798	0.831	0.828	0.856	1.000			
d22	0.762	0.794	0.785	0.811	0.845	1.000		
d23	0.702	0.694	0.679	0.688	0.671	0.658	1.000	
d24	0.636	0.631	0.627	0.630	0.626	0.607	0.723	1.000
d25	0.637	0.645	0.640	0.640	0.646	0.628	0.696	0.716
d26	0.513	0.505	0.507	0.497	0.490	0.482	0.521	0.502
d27	0.596	0.611	0.595	0.595	0.610	0.591	0.611	0.616
d28	0.609	0.620	0.604	0.608	0.621	0.601	0.621	0.629
d29	0.594	0.611	0.606	0.605	0.613	0.600	0.624	0.627

(続き)

	d25	d26	d27	d28	d29
d25	1.000				
d26	0.518	1.000			
d27	0.656	0.515	1.000		
d28	0.657	0.514	0.902	1.000	
d29	0.644	0.523	0.846	0.882	1.000

【巻末資料 2】

「わからない」の回答者に関するロジスティック回帰分析

d1	Odds ratio	Std. err.	z	P>z	[95% conf. interval]	
sc1	0.626219	0.058221	-5.03	0	0.521901	0.751389
age10	0.81661	0.025478	-6.49	0	0.76817	0.868104
edu	0.83197	0.040814	-3.75	0	0.755703	0.915935
d_mushoku	2.660653	0.283428	9.19	0	2.159302	3.278409
q2	1.80758	0.178885	5.98	0	1.488879	2.194499
d_kiko	0.282559	0.032067	-11.14	0	0.226209	0.352946
nensyu	1.017993	0.023663	0.77	0.443	0.972655	1.065445
sisan	1.003081	0.003193	0.97	0.334	0.996843	1.009359
d_inv_exp	0.613433	0.080347	-3.73	0	0.474545	0.792971
kurasi	1.193242	0.055909	3.77	0	1.088543	1.308012
rq11	0.87739	0.072729	-1.58	0.115	0.74582	1.03217
rq12	0.913261	0.070983	-1.17	0.243	0.784215	1.063541
rq13	1.052417	0.066546	0.81	0.419	0.929748	1.191271
rec_kou_inv	0.618438	0.040836	-7.28	0	0.543364	0.703885
rec_esg	1.232795	0.109475	2.36	0.018	1.035862	1.467166
int_sdgs	0.771046	0.047888	-4.19	0	0.682675	0.870857
_cons	2.066783	0.74373	2.02	0.044	1.020917	4.184071

d2	Odds ratio	Std. err.	z	P>z	[95% conf.interval]	
sc1	0.920517	0.070438	-1.08	0.279	0.792315	1.069463
age10	0.743014	0.019496	-11.32	0	0.705769	0.782225
edu	0.936239	0.037069	-1.66	0.096	0.866333	1.011785
d_mushoku	0.913098	0.080599	-1.03	0.303	0.768036	1.085558
q2	1.236935	0.097248	2.7	0.007	1.060291	1.443008
dai1	0.314346	0.030169	-12.06	0	0.260444	0.379403
dai2	0.263545	0.026889	-13.07	0	0.215779	0.321885
dai3	0.669792	0.07795	-3.44	0.001	0.533185	0.841398
nensyu	0.987444	0.018281	-0.68	0.495	0.952257	1.023931

sisan	0.997391	0.0026	-1	0.316	0.992308	1.0025
d_inv_exp	0.659442	0.060319	-4.55	0	0.551211	0.788925
kurasi	1.10327	0.040196	2.7	0.007	1.027235	1.184933
rq11	1.007606	0.064327	0.12	0.906	0.889097	1.141911
rq12	1.173913	0.069209	2.72	0.007	1.04581	1.317707
rq13	0.92882	0.044749	-1.53	0.125	0.845127	1.0208
rec_kou_inv	0.603798	0.02862	-10.64	0	0.550231	0.66258
rec_esg	0.960453	0.063093	-0.61	0.539	0.844423	1.092427
int_sdgs	0.587491	0.028412	-11	0	0.534363	0.645901
_cons	25.2188	7.567334	10.76	0	14.00577	45.40902

d3	Odds ratio	Std. err.	z	P>z	[95% conf. interval]	
sc1	1.105024	0.087973	1.25	0.21	0.945378	1.291628
age10	1.015044	0.027856	0.54	0.586	0.961891	1.071136
edu	0.949057	0.039121	-1.27	0.205	0.875397	1.028916
d_mushoku	1.231649	0.114289	2.25	0.025	1.026837	1.477314
q2	1.33138	0.108754	3.5	0	1.134414	1.562545
dai1	0.713819	0.069219	-3.48	0.001	0.590266	0.863234
dai2	0.928114	0.096214	-0.72	0.472	0.757462	1.137213
dai3	0.725244	0.090868	-2.56	0.01	0.567329	0.927116
d_kiko	0.677137	0.052202	-5.06	0	0.582179	0.787584
nensyu	0.975804	0.019126	-1.25	0.211	0.939028	1.01402
sisan	0.995936	0.00268	-1.51	0.13	0.990697	1.001202
d_inv_exp	0.743076	0.071301	-3.09	0.002	0.615684	0.896827
kurasi	1.058416	0.040471	1.48	0.138	0.981994	1.140786
rq11	0.516967	0.035824	-9.52	0	0.451314	0.592171
rq12	0.854499	0.053831	-2.5	0.013	0.755246	0.966795
rq13	0.743748	0.039065	-5.64	0	0.670991	0.824395
rec_kou_inv	0.65821	0.031935	-8.62	0	0.598502	0.723875
rec_esg	1.09239	0.080425	1.2	0.23	0.945606	1.261959
int_sdgs	0.5568	0.027911	-11.68	0	0.504697	0.614281
_cons	13.39228	4.138717	8.4	0	7.308049	24.54188

d5	Odds ratio	Std. err.	z	P>z	[95% conf. interval]	
sc1	1.20912	0.094695	2.42	0.015	1.037064	1.40972
age10	1.167012	0.032443	5.56	0	1.105127	1.232363
edu	0.924428	0.037372	-1.94	0.052	0.854007	1.000656
d_mushoku	0.933653	0.084155	-0.76	0.446	0.78246	1.114061
q2	1.149014	0.092977	1.72	0.086	0.980498	1.346492
dai1	1.071059	0.102969	0.71	0.475	0.887118	1.29314
dai2	1.010782	0.103286	0.1	0.916	0.827329	1.234915
dai3	1.228319	0.146187	1.73	0.084	0.972763	1.551014
d_kiko	0.838263	0.061338	-2.41	0.016	0.726266	0.967531
nensyu	0.989818	0.01874	-0.54	0.589	0.953762	1.027237
sisan	0.99944	0.002531	-0.22	0.825	0.994492	1.004412
d_inv_exp	0.559652	0.048399	-6.71	0	0.472396	0.663026
kurasi	1.044311	0.03864	1.17	0.241	0.971259	1.122859
rq11	0.703832	0.044939	-5.5	0	0.621041	0.797661
rq12	0.759979	0.043353	-4.81	0	0.679586	0.849882
rq13	0.642779	0.029738	-9.55	0	0.587058	0.703788
rec_kou_inv	0.44189	0.020058	-17.99	0	0.404275	0.483006
rec_esg	0.672928	0.048483	-5.5	0	0.584308	0.774989
int_sdgs	0.651993	0.030094	-9.27	0	0.5956	0.713726
_cons	41.48117	12.79087	12.08	0	22.66626	75.91405

d8	Odds ratio	Std. err.	z	P>z	[95% conf. interval]	
sc1	1.137753	0.092991	1.58	0.114	0.969343	1.335421
age10	0.890166	0.025567	-4.05	0	0.84144	0.941714
edu	0.917421	0.038715	-2.04	0.041	0.844594	0.996529
d_mushoku	0.920546	0.08718	-0.87	0.382	0.764598	1.108301
q2	1.114822	0.093179	1.3	0.193	0.946368	1.31326
dai1	0.762743	0.077218	-2.68	0.007	0.625468	0.930146
dai2	0.786309	0.085161	-2.22	0.026	0.635923	0.97226
dai3	1.083522	0.136636	0.64	0.525	0.846249	1.387322
d_kiko	0.806183	0.060343	-2.88	0.004	0.696179	0.93357

nensyu	1.043991	0.020186	2.23	0.026	1.005168	1.084313
sisan	0.998054	0.002693	-0.72	0.47	0.992789	1.003346
d_inv_exp	0.472284	0.041598	-8.52	0	0.397403	0.561276
kurasi	1.042596	0.039635	1.1	0.273	0.967737	1.123246
rq11	0.866516	0.057834	-2.15	0.032	0.760264	0.987618
rq12	0.906648	0.054203	-1.64	0.101	0.806399	1.019359
rq13	0.811609	0.038489	-4.4	0	0.739572	0.890663
rec_kou_inv	0.405157	0.018403	-19.89	0	0.370646	0.442881
rec_esg	0.717604	0.049988	-4.76	0	0.626023	0.822582
int_sdgs	0.439061	0.021351	-16.93	0	0.399146	0.482968
_cons	206.4704	68.17184	16.14	0	108.0962	394.3712

d16	Odds ratio	Std. err.	z	P>z	[95% conf. interval]	
sc1	1.429034	0.104349	4.89	0	1.238475	1.648913
age10	1.063942	0.027771	2.37	0.018	1.010881	1.119788
edu	0.911335	0.034356	-2.46	0.014	0.846426	0.981222
d_mushoku	1.138158	0.096747	1.52	0.128	0.963492	1.344488
q2	1.143527	0.086281	1.78	0.075	0.986329	1.325779
dai1	1.023942	0.093066	0.26	0.795	0.85686	1.223604
dai2	1.3773	0.132212	3.33	0.001	1.141087	1.662411
dai3	1.212658	0.137092	1.71	0.088	0.97165	1.513447
d_kiko	0.720127	0.048505	-4.87	0	0.631066	0.821757
nensyu	1.002404	0.017173	0.14	0.889	0.969305	1.036634
sisan	0.999374	0.002253	-0.28	0.781	0.994969	1.003799
d_inv_exp	0.847997	0.06624	-2.11	0.035	0.72762	0.98829
kurasi	1.053961	0.036208	1.53	0.126	0.985331	1.127372
rq11	0.659527	0.03931	-6.98	0	0.586811	0.741253
rq12	0.984431	0.052002	-0.3	0.766	0.887609	1.091815
rq13	0.739999	0.031061	-7.17	0	0.681557	0.803453
rec_kou_inv	0.640838	0.025454	-11.2	0	0.592842	0.692719
rec_esg	0.670113	0.040495	-6.62	0	0.595265	0.754373
int_sdgs	0.522092	0.022984	-14.76	0	0.478933	0.569139
_cons	27.56059	7.912573	11.55	0	15.70041	48.38005

d18	Odds ratio	Std. err.	z	P>z	[95% conf. interval]	
sc1	1.495514	0.114199	5.27	0	1.287633	1.736958
age10	1.082598	0.029495	2.91	0.004	1.026305	1.141979
edu	0.883261	0.034713	-3.16	0.002	0.817779	0.953986
d_mushoku	0.848304	0.074859	-1.86	0.062	0.71357	1.008478
q2	0.990583	0.078196	-0.12	0.905	0.848589	1.156337
dai1	1.261662	0.119861	2.45	0.014	1.047313	1.51988
dai2	1.246774	0.124555	2.21	0.027	1.025064	1.516438
dai3	1.151173	0.13471	1.2	0.229	0.915236	1.44793
d_kiko	0.804731	0.056867	-3.07	0.002	0.700649	0.924275
nensyu	0.984271	0.017734	-0.88	0.379	0.950119	1.019649
sisan	0.999579	0.002362	-0.18	0.858	0.994961	1.004218
d_inv_exp	0.856211	0.070057	-1.9	0.058	0.729346	1.005143
kurasi	1.066994	0.038344	1.8	0.071	0.994427	1.144855
rq11	0.660254	0.04102	-6.68	0	0.584557	0.745752
rq12	0.916326	0.050324	-1.59	0.112	0.822816	1.020462
rq13	0.598483	0.026548	-11.57	0	0.548647	0.652846
rec_kou_inv	0.645542	0.026809	-10.54	0	0.595078	0.700285
rec_esg	0.584569	0.038369	-8.18	0	0.514004	0.664822
int_sdgs	0.49414	0.02256	-15.44	0	0.451844	0.540395
_cons	71.14337	21.58703	14.05	0	39.25132	128.948

d25	Odds ratio	Std. err.	z	P>z	[95% conf. interval]	
sc1	1.401361	0.108033	4.38	0	1.204842	1.629935
age10	1.045045	0.028589	1.61	0.107	0.990488	1.102608
edu	0.897812	0.035622	-2.72	0.007	0.83064	0.970417
d_mushoku	1.054776	0.094289	0.6	0.551	0.885257	1.256757
q2	1.079012	0.085734	0.96	0.339	0.923407	1.260838
dai1	0.965395	0.092095	-0.37	0.712	0.800762	1.163874
dai2	1.00393	0.101282	0.04	0.969	0.823814	1.223426
dai3	1.03304	0.122566	0.27	0.784	0.818701	1.303494

d_kiko	0.675903	0.047879	-5.53	0	0.588285	0.776571
nensyu	1.02841	0.018612	1.55	0.122	0.992571	1.065544
sisan	0.998031	0.002425	-0.81	0.417	0.993291	1.002795
d_inv_exp	0.766228	0.063542	-3.21	0.001	0.651283	0.901461
kurasi	1.052063	0.038059	1.4	0.161	0.980052	1.129366
rq11	0.831264	0.052329	-2.94	0.003	0.734777	0.940421
rq12	0.970266	0.054732	-0.54	0.593	0.86871	1.083694
rq13	0.779411	0.034834	-5.58	0	0.714043	0.850763
rec_kou_inv	0.551459	0.023307	-14.08	0	0.507619	0.599084
rec_esg	0.749474	0.048489	-4.46	0	0.660216	0.850799
int_sdgs	0.382184	0.018017	-20.4	0	0.348455	0.419179
_cons	47.4962	14.43228	12.71	0	26.1825	86.16015

d26	Odds ratio	Std. err.	z	P>z	[95% conf. interval]	
sc1	1.316792	0.099314	3.65	0	1.135843	1.526567
age10	1.247949	0.034791	7.95	0	1.18159	1.318034
edu	0.870598	0.033664	-3.58	0	0.807055	0.939143
d_mushoku	0.991049	0.088146	-0.1	0.919	0.832507	1.179785
q2	0.969201	0.077097	-0.39	0.694	0.829284	1.132724
dai1	1.012024	0.098239	0.12	0.902	0.836687	1.224104
dai2	1.257762	0.126415	2.28	0.023	1.032871	1.531618
dai3	1.275822	0.156345	1.99	0.047	1.003415	1.622183
d_kiko	0.879538	0.061783	-1.83	0.068	0.766411	1.009363
nensyu	1.015975	0.01721	0.94	0.349	0.982798	1.050271
sisan	0.994534	0.002119	-2.57	0.01	0.99039	0.998696
d_inv_exp	0.58033	0.044236	-7.14	0	0.499795	0.673842
kurasi	1.031715	0.036584	0.88	0.379	0.962447	1.105969
rq11	0.839482	0.051765	-2.84	0.005	0.743915	0.947326
rq12	0.960845	0.05112	-0.75	0.453	0.865699	1.066448
rq13	0.728705	0.030294	-7.61	0	0.671684	0.790567
rec_kou_inv	0.701703	0.028132	-8.84	0	0.648675	0.759065
rec_esg	0.587508	0.031876	-9.8	0	0.52824	0.653427
int_sdgs	0.494278	0.02329	-14.95	0	0.450675	0.542101

_cons	49.30828	14.89738	12.9	0	27.27398	89.14378
-------	----------	----------	------	---	----------	----------

d27	Odds ratio	Std. err.	z	P>z	[95% conf. interval]	
sc1	1.148964	0.090553	1.76	0.078	0.984511	1.340886
age10	1.070936	0.029642	2.48	0.013	1.014387	1.130637
edu	1.001135	0.040614	0.03	0.978	0.924616	1.083986
d_mushoku	0.925694	0.08427	-0.85	0.396	0.774424	1.106512
q2	1.130062	0.091542	1.51	0.131	0.964161	1.32451
dai1	0.944827	0.091464	-0.59	0.558	0.781541	1.142229
dai2	0.892983	0.091837	-1.1	0.271	0.729967	1.092404
dai3	1.056745	0.128041	0.46	0.649	0.833362	1.340005
d_kiko	0.814325	0.059986	-2.79	0.005	0.704848	0.940806
nensyu	1.013262	0.018984	0.7	0.482	0.976729	1.051162
sisan	0.994995	0.002558	-1.95	0.051	0.989993	1.000021
d_inv_exp	0.68835	0.06048	-4.25	0	0.579457	0.817706
kurasi	1.117344	0.041549	2.98	0.003	1.038807	1.201819
rq11	0.866345	0.055922	-2.22	0.026	0.76339	0.983185
rq12	0.853496	0.050122	-2.7	0.007	0.760701	0.957611
rq13	0.672448	0.031992	-8.34	0	0.61258	0.738167
rec_kou_inv	0.531852	0.023874	-14.07	0	0.487059	0.580763
rec_esg	0.717622	0.050853	-4.68	0	0.624564	0.824545
int_sdgs	0.414832	0.019816	-18.42	0	0.377756	0.455547
_cons	46.35029	14.38186	12.36	0	25.23111	85.14685

【巻末資料 3】

「わからない」をベース・カテゴリーとした多項ロジット回帰分析

公的年金による ESG 投資への希望

rq21	RRR	Std. err.	z	P> z	[95% conf. interval]	
1						
sc1	.6497139	.0614244	-4.56	0.000	.5398199	.7819795
age10	.8935113	.0312465	-3.22	0.001	.8343209	.956901
edu	1.079849	.0528704	1.57	0.117	.9810419	1.188608
d_mushoku	.8743234	.0974745	-1.20	0.228	.7027088	1.08785
q2	.8029496	.079184	-2.23	0.026	.6618291	.9741611
dai1	.8769927	.1087441	-1.06	0.290	.6877805	1.118258
dai2	.7028086	.0887873	-2.79	0.005	.5486596	.9002668
dai3	.7095763	.1072387	-2.27	0.023	.5276628	.9542052
d_kiko	1.459057	.1259619	4.38	0.000	1.231933	1.728055
nensyu	.9838085	.0208653	-0.77	0.441	.9437517	1.025566
sisan	1.006956	.0027016	2.58	0.010	1.001675	1.012265
d_inv_exp	1.63694	.155393	5.19	0.000	1.35903	1.97168
kurasi	1.006061	.0442543	0.14	0.891	.9229585	1.096647
rq11	1.483254	.1144892	5.11	0.000	1.275009	1.725512
rq12	1.2665	.0828975	3.61	0.000	1.114014	1.439858
rq13	1.435347	.0740416	7.01	0.000	1.297323	1.588056
rec_kou_inv	1.777606	.0891771	11.47	0.000	1.611141	1.961272
rec_esg	1.402072	.0977428	4.85	0.000	1.223011	1.607349
int_sdgs	3.760602	.2383432	20.90	0.000	3.321308	4.258001
_cons	.0019553	.0007696	-15.85	0.000	.000904	.0042291
2						
sc1	.7318561	.0581249	-3.93	0.000	.6263574	.8551242
age10	.9669806	.0273124	-1.19	0.235	.914904	1.022021
edu	1.114164	.0454741	2.65	0.008	1.028508	1.206953
d_mushoku	.8711007	.0804206	-1.49	0.135	.726917	1.043883
q2	.9123247	.0747599	-1.12	0.263	.7769593	1.071274
dai1	1.051175	.1027546	0.51	0.610	.867897	1.273157
dai2	.7527741	.0782102	-2.73	0.006	.6140847	.9227861
dai3	.9247992	.114821	-0.63	0.529	.7250437	1.179589

d_kiko	1.353458	.0999211	4.10	0.000	1.171126	1.564178
nensyu	1.006219	.0186835	0.33	0.738	.9702582	1.043512
sisan	.9964527	.0025819	-1.37	0.170	.9914051	1.001526
d_inv_exp	.9501152	.0833459	-0.58	0.560	.8000319	1.128354
kurasi	.9090541	.0340412	-2.55	0.011	.8447243	.978283
rq11	1.56033	.1009002	6.88	0.000	1.374588	1.77117
rq12	.8738411	.0521064	-2.26	0.024	.7774564	.9821751
rq13	1.323225	.0616402	6.01	0.000	1.207763	1.449724
rec_kou_inv	1.473314	.064457	8.86	0.000	1.352245	1.605222
rec_esg	1.520513	.0998576	6.38	0.000	1.336868	1.729385
int_sdgs	1.375268	.0672477	6.52	0.000	1.249584	1.513594
_cons	.0477518	.0148644	-9.77	0.000	.0259433	.0878932
3	(base outcome)					

公的年金による株式運用に対する見解

rq18	RRR	Std. err.	z	P> z	[95% conf. interval]	
1						
sc1	.7662451	.0753511	-2.71	0.007	.63192	.9291231
age10	1.073254	.0384546	1.97	0.048	1.00047	1.151333
edu	1.105303	.0561127	1.97	0.049	1.000618	1.220939
d_mushoku	1.298369	.1517348	2.23	0.025	1.032575	1.632579
q2	.9614622	.0979866	-0.39	0.700	.787377	1.174037
dai1	1.431454	.1823576	2.82	0.005	1.115168	1.837447
dai2	1.398052	.1854156	2.53	0.012	1.078036	1.813065
dai3	.8451026	.1341685	-1.06	0.289	.619117	1.153576
d_kiko	1.337106	.1202894	3.23	0.001	1.120959	1.594932
nensyu	.973825	.0216787	-1.19	0.233	.9322491	1.017255
sisan	1.004281	.0030056	1.43	0.154	.9984069	1.010189
d_inv_exp	3.410295	.3409218	12.27	0.000	2.803488	4.148444
kurasi	1.104761	.0508398	2.16	0.030	1.009479	1.209037
rq11	1.077616	.0870587	0.93	0.355	.9198075	1.262499
rq12	1.281754	.0903058	3.52	0.000	1.116435	1.471553
rq13	1.151238	.0645625	2.51	0.012	1.031404	1.284994
rec_kou_inv	2.894386	.1550594	19.84	0.000	2.605887	3.214826

rec_esg	1.43796	.110211	4.74	0.000	1.237392	1.671038
int_sdgs	2.991442	.1836354	17.85	0.000	2.652332	3.373907
_cons	.0006535	.0002698	-17.76	0.000	.0002909	.0014678
2						
sc1	.953231	.0836579	-0.55	0.585	.8025916	1.132144
age10	1.159077	.0359788	4.76	0.000	1.090662	1.231783
edu	1.087385	.0493739	1.85	0.065	.9947956	1.188593
d_mushoku	.9962338	.100152	-0.04	0.970	.8180681	1.213202
q2	.8713212	.0780974	-1.54	0.124	.7309443	1.038657
dai1	1.258071	.1363426	2.12	0.034	1.017318	1.555799
dai2	1.222472	.1415909	1.73	0.083	.9742038	1.534009
dai3	.9777174	.1301258	-0.17	0.866	.7532267	1.269115
d_kiko	1.172229	.0939969	1.98	0.048	1.001746	1.371725
nensyu	.9470875	.020146	-2.56	0.011	.9084139	.9874076
sisan	.9998805	.00296	-0.04	0.968	.9940958	1.005699
d_inv_exp	1.449262	.1398022	3.85	0.000	1.199599	1.750885
kurasi	.884836	.0361566	-2.99	0.003	.816734	.9586167
rq11	1.210883	.0862616	2.69	0.007	1.053086	1.392325
rq12	.9979085	.064063	-0.03	0.974	.8799255	1.131711
rq13	1.291749	.0649361	5.09	0.000	1.170546	1.425503
rec_kou_inv	2.215524	.1078157	16.35	0.000	2.013974	2.437245
rec_esg	1.32503	.0989911	3.77	0.000	1.144547	1.533973
int_sdgs	1.95168	.1022835	12.76	0.000	1.76116	2.162809
_cons	.0050174	.0017831	-14.90	0.000	.0025002	.0100689
3	(base outcome)					

【巻末資料 4】

意向表明者を対象とした ESG 投資等についての重回帰分析

公的年金による ESG 投資への希望

lq21	Coefficient	Std. err.	t	P>t	[95% conf. interval]	
sc1	-0.03213	0.029193	-1.1	0.271	-0.08937	0.025109
age10	-0.01501	0.01082	-1.39	0.165	-0.03623	0.006203
edu	-0.01155	0.014821	-0.78	0.436	-0.04061	0.017512
d_mushoku	-0.00512	0.034977	-0.15	0.884	-0.0737	0.06346
q2	0.015336	0.03074	0.5	0.618	-0.04494	0.075608
dai1	-0.03616	0.038347	-0.94	0.346	-0.11135	0.039025
dai2	0.010796	0.038879	0.28	0.781	-0.06544	0.087028
dai3	-0.02017	0.049398	-0.41	0.683	-0.11702	0.076686
d_kiko	0.063773	0.0271	2.35	0.019	0.010638	0.116908
nensyu	-0.00958	0.006149	-1.56	0.119	-0.02164	0.002476
sisan	0.002962	0.000765	3.87	0	0.001461	0.004463
d_inv_exp	0.150072	0.029805	5.04	0	0.091633	0.208511
kurasi	0.055164	0.013601	4.06	0	0.028497	0.081831
rq11	0.004776	0.023777	0.2	0.841	-0.04184	0.051396
rq12	0.127165	0.020488	6.21	0	0.086994	0.167337
rq13	0.031434	0.016162	1.94	0.052	-0.00025	0.063122
rec_kou_inv	0.061415	0.015541	3.95	0	0.030943	0.091886
rec_esg	0.003468	0.018219	0.19	0.849	-0.03225	0.039191
int_sdgs	0.394642	0.018857	20.93	0	0.357668	0.431616
_cons	0.90442	0.120202	7.52	0	0.668738	1.140102

企業年金による ESG 投資への希望

lq23	Coefficient	Std. err.	t	P>t	[95% conf. interval]	
sc1	-0.02911	0.028629	-1.02	0.309	-0.08524	0.027027
age10	0.001217	0.010439	0.12	0.907	-0.01925	0.021685
edu	-0.00091	0.014411	-0.06	0.95	-0.02916	0.027346
d_mushoku	0.037671	0.034036	1.11	0.268	-0.02906	0.104407
q2	0.022454	0.029763	0.75	0.451	-0.0359	0.080811
dai1	0.028501	0.038027	0.75	0.454	-0.04606	0.103061

dai2	0.075214	0.03814	1.97	0.049	0.000433	0.149995
dai3	0.098045	0.047498	2.06	0.039	0.004915	0.191175
d_kiko	0.092965	0.026461	3.51	0	0.041083	0.144848
nensyu	-0.01162	0.005917	-1.96	0.05	-0.02322	-1.7E-05
sisan	0.002377	0.000734	3.24	0.001	0.000939	0.003816
d_inv_exp	0.079877	0.02902	2.75	0.006	0.022978	0.136777
kurasi	0.031903	0.012984	2.46	0.014	0.006446	0.05736
rq11	-0.02525	0.022884	-1.1	0.27	-0.07011	0.019622
rq12	0.135002	0.019871	6.79	0	0.096041	0.173962
rq13	0.055986	0.015822	3.54	0	0.024964	0.087008
rec_kou_inv	0.083494	0.014985	5.57	0	0.054113	0.112875
rec_esg	-0.04229	0.01771	-2.39	0.017	-0.07702	-0.00757
int_sdgs	0.427504	0.018618	22.96	0	0.390999	0.464009
_cons	0.755302	0.116286	6.5	0	0.527297	0.983306

年金資金による ESG 投資の進め方

lq25	Coefficient	Std. err.	t	P>t	[95% conf. interval]	
sc1	-0.04858	0.027715	-1.75	0.08	-0.10292	0.005758
age10	-0.00639	0.010309	-0.62	0.536	-0.0266	0.013824
edu	-0.01918	0.014155	-1.35	0.176	-0.04693	0.008575
d_mushoku	0.042321	0.033026	1.28	0.2	-0.02243	0.107074
q2	-0.01668	0.028788	-0.58	0.562	-0.07312	0.039762
dai1	-0.00581	0.037035	-0.16	0.875	-0.07843	0.0668
dai2	0.075439	0.037216	2.03	0.043	0.002471	0.148407
dai3	0.010068	0.046142	0.22	0.827	-0.0804	0.100537
d_kiko	0.08271	0.025413	3.25	0.001	0.032883	0.132536
nensyu	-0.00624	0.005908	-1.06	0.291	-0.01782	0.005346
sisan	0.001528	0.000723	2.11	0.035	0.000111	0.002946
d_inv_exp	0.145326	0.027847	5.22	0	0.090728	0.199924
kurasi	0.030733	0.012637	2.43	0.015	0.005956	0.055511
rq11	0.007978	0.0229	0.35	0.728	-0.03692	0.052878
rq12	0.130504	0.019116	6.83	0	0.093024	0.167985
rq13	0.061403	0.015071	4.07	0	0.031854	0.090953
rec_kou_inv	0.073884	0.014506	5.09	0	0.045443	0.102324

rec_esg	-0.02311	0.017556	-1.32	0.188	-0.05753	0.011313
int_sdgs	0.462557	0.018327	25.24	0	0.426624	0.49849
_cons	0.711611	0.115358	6.17	0	0.485431	0.937791

公的年金による株式投資に対する見解

lq18	Coefficient	Std. err.	t	P>t	[95% conf. interval]	
sc1	-0.09576	0.031839	-3.01	0.003	-0.15818	-0.03333
age10	-0.05684	0.012199	-4.66	0	-0.08076	-0.03292
edu	-0.00984	0.016274	-0.6	0.545	-0.04175	0.022067
d_mushoku	-0.01306	0.038226	-0.34	0.733	-0.08801	0.061891
q2	-0.00254	0.033133	-0.08	0.939	-0.0675	0.062427
dai1	0.012669	0.042882	0.3	0.768	-0.07141	0.096746
dai2	0.00317	0.043317	0.07	0.942	-0.08176	0.088101
dai3	-0.06533	0.053475	-1.22	0.222	-0.17018	0.039517
d_kiko	0.079738	0.029116	2.74	0.006	0.02265	0.136825
nensyu	-0.00017	0.006788	-0.02	0.98	-0.01348	0.013141
sisan	0.003341	0.00083	4.03	0	0.001714	0.004968
d_inv_exp	0.342254	0.031229	10.96	0	0.281025	0.403483
kurasi	0.083427	0.014743	5.66	0	0.054521	0.112333
rq11	-0.02865	0.026548	-1.08	0.281	-0.0807	0.023403
rq12	0.102762	0.021994	4.67	0	0.059638	0.145886
rq13	-0.03408	0.017307	-1.97	0.049	-0.06802	-0.00015
rec_kou_inv	0.106298	0.016494	6.44	0	0.073958	0.138638
rec_esg	0.034726	0.019936	1.74	0.082	-0.00436	0.073813
int_sdgs	0.183522	0.020863	8.8	0	0.142617	0.224428
_cons	1.738909	0.13716	12.68	0	1.469983	2.007836

政府の CO2 対策に対する評価

lq10	Coefficient	Std. err.	t	P>t	[95% conf. interval]	
sc1	0.172944	0.026746	6.47	0	0.120508	0.225379
age10	0.056002	0.009752	5.74	0	0.036883	0.07512
edu	-0.04181	0.013642	-3.06	0.002	-0.06855	-0.01506
d_mushoku	0.07866	0.03116	2.52	0.012	0.017572	0.139749
q2	-0.02571	0.027581	-0.93	0.351	-0.07979	0.028359

dai1	0.035342	0.0349	1.01	0.311	-0.03308	0.103764
dai2	0.086869	0.035921	2.42	0.016	0.016446	0.157292
dai3	-0.00565	0.042708	-0.13	0.895	-0.08938	0.078082
d_kiko	0.005322	0.024524	0.22	0.828	-0.04276	0.053401
nensyu	-0.0154	0.005752	-2.68	0.007	-0.02668	-0.00413
sisan	0.001056	0.000735	1.44	0.151	-0.00038	0.002497
d_inv_exp	-0.02054	0.027501	-0.75	0.455	-0.07446	0.033378
kurasi	0.162382	0.012088	13.43	0	0.138683	0.186081
rq11	0.087561	0.021411	4.09	0	0.045585	0.129537
rq12	0.069415	0.018418	3.77	0	0.033305	0.105524
rq13	-0.01752	0.014639	-1.2	0.231	-0.04622	0.011178
rec_kou_inv	-0.02694	0.014203	-1.9	0.058	-0.05479	0.000902
rec_esg	-0.1031	0.0181	-5.7	0	-0.13858	-0.06761
int_sdgs	0.262711	0.016338	16.08	0	0.230679	0.294742
_cons	1.811342	0.107768	16.81	0	1.600063	2.022622